

茅ヶ崎の環境

－ 平成30年度環境保全報告 －



茅ヶ崎公園体験学習センター うみかぜテラス



令和2年1月
茅ヶ崎市

表紙写真

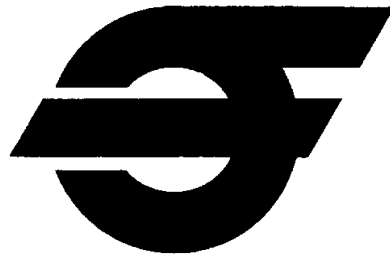
茅ヶ崎公園体験学習センター うみかぜテラス

本施設は、茅ヶ崎公園が持つ「みどり」や「海」といった風光明媚な環境を生かした様々な学びや体験を通じて、子どもから高齢者まであらゆる世代が交流できる施設を目指しており、平成31年1月5日（土曜日）にオープンしました。

館内には、来館された方が自由に過ごすことができるスペースと団体・サークルの皆様が占用して使用できる部屋があります。

（茅ヶ崎市ホームページより抜粋）

市 章



「チガサキ」の「チ」を図案化した円形は、市の融和と団結をあらわし、翼状平行線は市勢の飛躍、発展を象徴しています。
(昭和32年10月1日制定)

市 民 憲 章

美しい海

きれいな空気

おだやかな四季

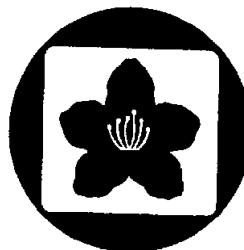
私たちはこのめぐまれた自然に感謝しながら、
未来へ力強くはばたくための愛市憲章をここに定めます。

1. 美しい自然は、私たちみんなの誇りです。
1. 私たちは、元気で仲良く、きょうも働きます。
1. 私たちは、きまりを守り、安全で住みよいまちづくりにはげみます。
1. 私たちは、文化の花咲く、明るい平和なまちをきずきます。
1. 老いも若きも手を取りあって、輝かしい明日へ向って前進しましょう。

市の木・市の花・市の鳥



市の木「アカシア」
(昭和47年10月1日制定)



市の花「つつじ」
(昭和47年10月1日制定)



市の鳥「シジュウカラ」
白地にネクタイといった
かわいい模様が特徴です。
(平成9年10月1日制定)

目 次

第1章 市勢の概要

1	位置と地勢	1
2	市街化区域と市街化調整区域	2
3	人口・世帯数	3
4	市の環境行政機構	4

第2章 公害関係法令等制定状況と届出

1	公害法令等制定状況	5
2	法令等に基づく本市の規制地域指定状況	5
3	法令等に基づく申請・届出	6

第3章 公害苦情発生状況

1	公害苦情件数の推移	10
2	用途地域別苦情件数	11
3	業種別苦情件数	12

第4章 公害の現況

1	大気汚染	13
2	水質汚濁	25
3	騒音・振動	38

環境に関する用語の解説	45
-------------	----

◎平成30年度 広報記事一覧	51
----------------	----

第1章 市勢の概要

- 1 位置と地勢
- 2 市街化区域と市街化調整区域
- 3 人口・世帯数
- 4 市の環境行政機構

1 位置と地勢

市域は海岸線から北部に広がっており、湘南砂丘となだらかな丘陵からなっています。気候は四季を通じて温暖で、夏涼しく冬は暖かです。年間の平均気温も摂氏17度と自然に恵まれており、明治時代後半から戦前にかけては湘南有数の別荘地でした。

山梨県

静岡県

相模湾

相模原市

愛川町

清川村

厚木市

座間市

大和市

海老名市

綾瀬市

茅川町

藤沢市

平塚市

大磯町

二宮町

大井町

中井町

栗野市

松田町

山北町

南足柄市

箱根町

湯河原町

真鶴町

小田原市

鎌倉市

逗子市

葉山町

横須賀市

三浦市

川崎市

横浜市

東京都

2 市街化区域と市街化調整区域

用途地域別の面積とその割合

区域別	地 域 別	面 積 (ha)	率 (%)
市 街 化 区 域	第1種低層住居専用地域	555.0	15.5
	第2種低層住居専用地域	5.3	0.1
	第1種中高層住居専用地域	820.0	22.9
	第2種中高層住居専用地域	43.0	1.2
	第1種住居地域	380.0	10.6
	第2種住居地域	47.0	1.3
	準住居地域	9.7	0.3
	近隣商業地域	63.0	1.8
	商業地域	27.0	0.8
	準工業地域	124.0	3.5
	工業地域	47.0	1.3
	工業専用地域	100.0	2.8
	小 計	2,221.0	62.1
市 街 化 調 整 区 域		1,355.0	37.9
合 計		3,576.0	100.0

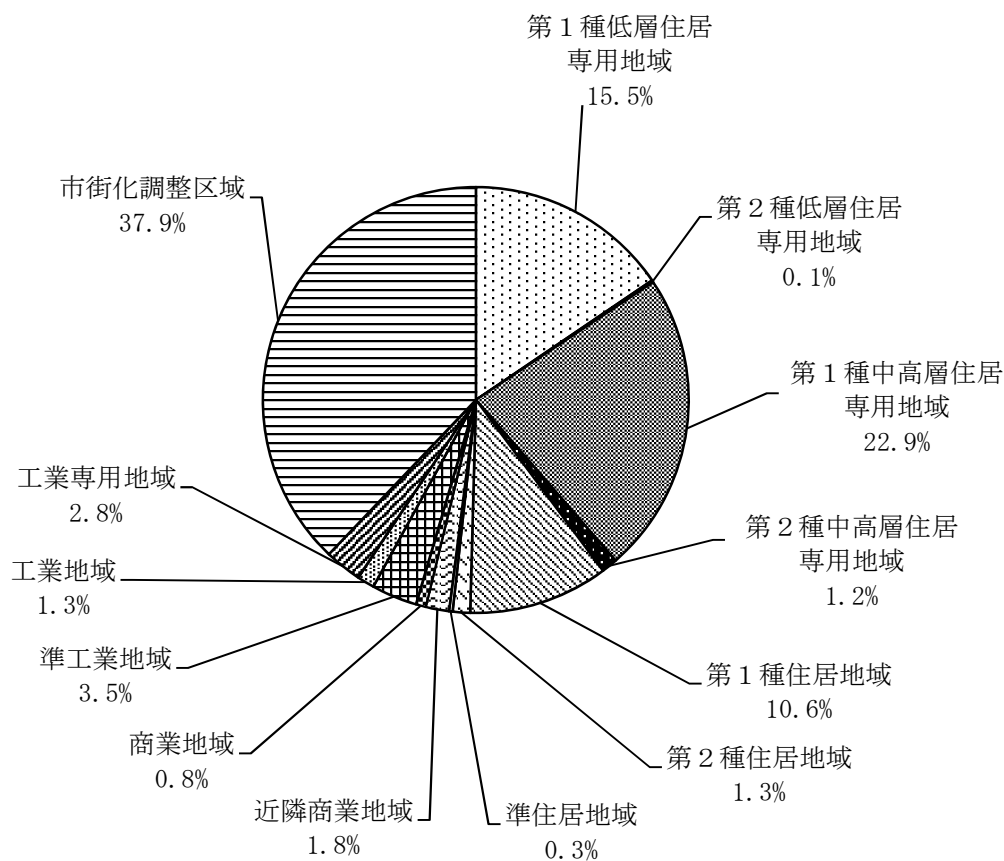


図 用途地域別面積割合

3 人口・世帯数

昭和40年からの人口及び世帯数の推移

各年10月1日現在

年次	世帯数	人 口		
		総 数	男	女
昭和40年	25,510	100,081	50,266	49,815
45年	35,467	129,621	64,934	64,687
50年	43,520	152,023	75,954	76,069
55年	51,715	171,016	85,621	85,395
60年	57,377	185,030	92,444	92,586
平成2年	66,729	201,675	100,820	100,855
7年	74,032	212,874	106,035	106,839
13年	82,381	222,460	110,077	112,383
14年	84,161	224,469	111,016	113,453
15年	85,737	226,106	111,691	114,415
16年	87,273	227,659	112,369	115,290
17年	87,976	228,430	113,256	115,174
18年	89,224	228,889	113,427	115,462
19年	90,732	230,565	114,292	116,273
20年	91,984	232,237	114,963	117,274
21年	93,505	234,114	115,740	118,374
22年	93,445	235,081	115,245	119,836
23年	94,324	235,659	115,358	120,301
24年	95,262	236,093	115,414	120,679
25年	96,339	237,065	115,785	121,280
26年	97,479	237,826	116,126	121,700
27年	97,944	239,424	116,904	122,520
28年	99,112	240,046	117,071	122,975
29年	100,278	240,618	117,254	123,364
30年	101,862	242,003	117,872	124,131

人口又は世帯数

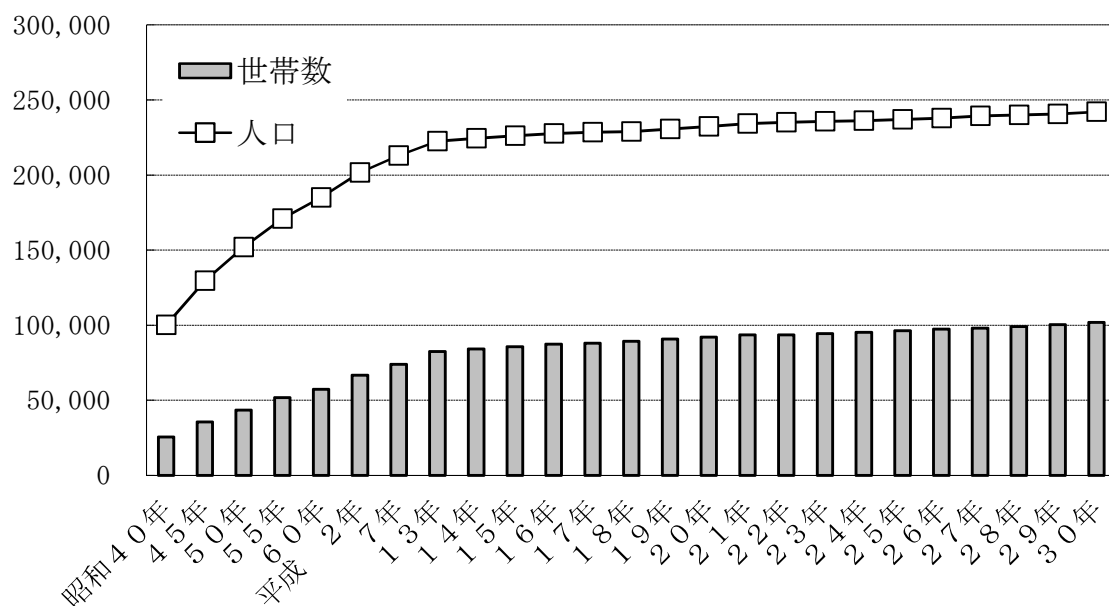
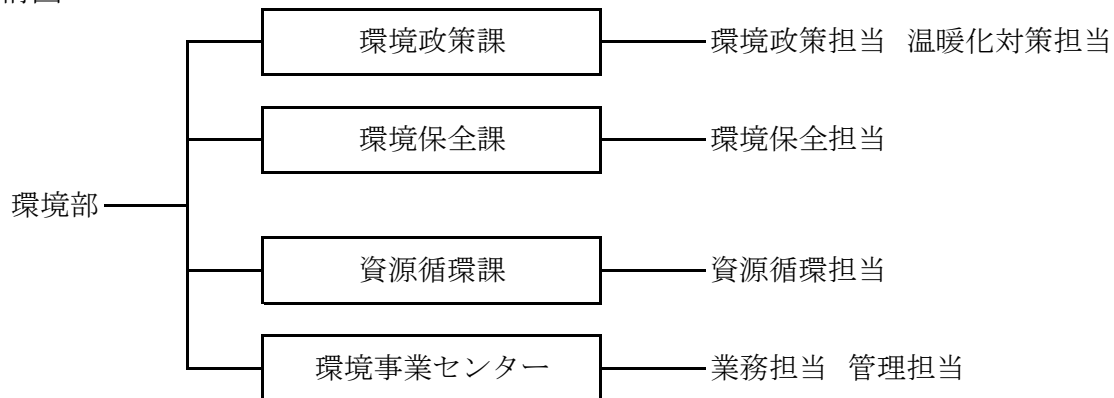


図 人口及び世帯数の推移

4 市の環境行政機構（平成30年4月1日現在）

機構図



環境行政機構の変遷

昭和33年12月 商工観光課

昭和41年11月 經濟部 ————商工觀光課 ————指導係

昭和42年10月 經濟部 ————商工觀光課 ————公害係

昭和47年 7月 生活環境部 ————環境整備課 ————公害係

昭和54年 7月 生活環境部 ———— 公害対策課

- └─── 対策係
- └─── 調査指導係

平成 5 年 4 月 環境部 ————環境保全課 ————環境保全担当

環境保全課事務分掌

- (1) 公害防止対策の計画及び連絡調整に関すること。
- (2) 騒音を規制する地域の指定及び規制基準の設定等に関すること。
- (3) 水質汚濁の防止に係る常時監視等に関すること。
- (4) 悪臭を規制する地域の指定及び規制基準の設定等に関すること。
- (5) 汚水等を排出する工場の公害防止統括者の選任届出等に関すること。
- (6) 振動を規制する地域の指定及び規制基準の設定等に関すること。
- (7) 土壌汚染対策に係る調査及び報告等に関すること。
- (8) 汚染土壌処理業に関すること。
- (9) 地下水採取の許可及び届出書の受理等に関すること。
- (10) 大気汚染の防止に係る監視及び規制等に関すること。
- (11) 公害の発生予防及び防止の指導に関すること。
- (12) 公害の調査、測定及び分析に関すること。
- (13) 公害事案の処理に関すること。
- (14) 浄化槽の設置の届出の受理等に関すること。
- (15) 浄化槽保守点検業者の登録及び指導に関すること。
- (16) 環境美化事業に関すること。
- (17) 空地等（他の所管に属するものを除く。）の浄化推進に関すること。
- (18) 公衆便所（他の所管に属するものを除く。）に関すること。
- (19) し尿の収集及び浄化槽清掃に関すること。
- (20) 一般廃棄物処理手数料（屎尿及び浄化槽の汚泥に係るものに限る。）の賦課、徴収及び減免に関すること。

第2章 公害関係法令等制定状況と届出

- 1 公害法令等制定状況
- 2 法令等に基づく本市の規制地域指定状況
- 3 法令等に基づく申請・届出

第2章 公害関係法令等制定状況と届出

1 公害法令等制定状況

公布年月日	法 令 等 の 制 定 状 況
昭和26年12月	神奈川県事業場公害防止条例
33年12月	工場排水等の規制に関する法律
37年 6月	ばい煙の規制等に関する法律
39年 3月	神奈川県公害の防止に関する条例
42年 8月	公害対策基本法
43年 6月	大気汚染防止法
43年 6月	騒音規制法
45年 6月	公害紛争処理法
45年12月	水質汚濁防止法
46年 3月	農用地の土壌汚染防止等に関する法律
46年 6月	神奈川県公害防止条例
46年 6月	悪臭防止法
51年 6月	特定工場における公害防止組織の整備に関する法律
51年 6月	振動規制法
53年 3月	神奈川県公害防止条例（全面改正）
55年10月	神奈川県環境影響評価条例
平成 4年 6月	自動車から排出される窒素酸化物の特定地域における総量削減等に関する特別措置法（自動車NO _x 法）
5年11月	環境基本法
8年 3月	神奈川県環境基本条例
8年 9月	茅ヶ崎市環境基本条例
9年 6月	環境影響評価法
9年10月	神奈川県生活環境の保全等に関する条例
11年 7月	ダイオキシン類対策特別措置法
13年 6月	自動車から排出される窒素酸化物及び浮遊粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法（自動車NO _x ・PM法）
14年 3月	茅ヶ崎市民の美しく健康的な生活環境を守る条例
14年 5月	土壌汚染対策法
15年 4月	茅ヶ崎市が特例市（現 施行時特例市）に移行 （政令で指定する人口二十万以上の市）
29年 4月	茅ヶ崎市が保健所政令市に移行

2 法令等に基づく本市の規制地域指定状況

施行年月	内 容	規 制 地 域
昭和44年 4月	騒音規制法に基づく地域指定 （昭和49年5月廃止）	市内全域（工業専用地域を除く）
48年 5月	神奈川県公害防止条例に基づく 地下水採取規制指定地域	市内全域
48年 5月	悪臭防止法に基づく地域指定	市街化区域
49年 5月	騒音規制法に基づく地域指定	市内全域（工業専用地域を除く）
52年11月	振動規制法に基づく地域指定	市内全域（工業専用地域を除く）
平成 4年12月	自動車NO _x 法に基づく地域指定	市内全域
15年 4月 （特例市移行に 伴う事務）	悪臭防止法に基づく規制地域及び 規制基準の指定	市街化区域
	騒音規制法及び振動規制法に基づく 規制地域及び規制基準の指定	市内全域（工業専用地域を除く）
17年 1月	悪臭防止法に基づく規制地域及び 規制基準の改正（臭気指数規制告示）	市内全域（農業振興地域を除く）
24年 4月	環境基本法に基づく騒音に係る 環境基準の地域類型の指定	市内全域（工業専用地域を除く）

3 法令等に基づく申請・届出

(1) 神奈川県生活環境の保全等に関する条例

神奈川県生活環境の保全等に関する条例では、騒音や振動等の公害全般について規制するため、条例で指定した施設を設置等する場合に県の許可が必要となります。

また、同条例では茅ヶ崎市内が地下水採取により地盤沈下が生じている地域、または生ずるおそれがある地域として指定されていることから地下水採取する場合に許可が必要となります。

その他に、有害物質等を使用した土地等の土壌汚染に係る届出や夜間小売店業に係る届出、化学物質の管理状況に係る届出があります。

(件数)

区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度比
指定事業所数	170	162	162	160	-2
設置許可申請	1	0	2	1	-1
事業開始届	1	0	0	0	0
変更許可申請	11	15	13	10	-3
変更完了届	2	13	5	6	1
変更計画中止届	0	0	0	0	0
変更計画届	0	0	0	0	0
変更計画早期着手申請	0	0	0	0	0
変更届	40	28	19	28	9
地位承継届	1	3	0	0	0
廃止等届	5	8	3	3	0
環境配慮書	3	1	2	1	-1
現況届	0	0	0	1	1
地下水採取関係届	136	140	142	139	-3
夜間小売業関係届	0	0	1	0	-1
土壌汚染関係	64	51	60	72	12
環境汚染関係	0	1	4	0	-4
化学物質管理状況報告書	77	15	11	26	15
合 計 (申請・届出数)	341	275	262	287	25

(2) 水質汚濁防止法

水質汚濁防止法では、河川等の公共用水域の汚濁を防止するため、法で定められた施設を設置等する場合は届出が必要となります。

区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度比
特定事業場数	98	93	94	95	1
(法第5条第1項) 設置届	34	7	14	14	0
(法第7条) 構造等変更届	19	5	6	9	3
(法第10条) 氏名等変更届	16	12	9	6	-3
(法第10条) 廃止届	10	1	14	14	0
(法第11条) 承継届	0	1	0	0	0
合 計	79	26	43	43	0

(3) 土壌汚染対策法

土壌汚染対策法では、土壌汚染による健康被害を未然に防止するため、水質汚濁防止法等で届出されている有害物質を使用した施設を廃止等した場合は、工場・事業所内の土地を調査しなければなりません。ただし、引き続き工場・事業所として土地が利用される場合は調査が猶予される場合もあります。

また、一定規模（3,000㎡以上）の土地区画形質を変更する場合にも届出が必要となり、土地の使用履歴等により土壌調査を命令する場合があります。

(件数)

区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度比
(法第3条) 土壌汚染状況調査結果報告	0	0	0	0	0
(法第3条第1項) ただし書の確認申請	3	2	9	6	-3
(規則第16条第4項) 承継届	0	0	0	0	0
(法第3条第4項) 土地利用方法変更届	0	0	0	0	0
(法第4条) 一定規模以上形質変更届	2	6	5	4	-1
(法第4条) 土壌汚染状況調査結果報告書	2	0	1	0	-1
(法第12条第1項) 区域内における土地の形質変更届	1	0	0	0	0
(法第14条) 指定の申請	1	0	0	0	0
(法第16条第1項) 汚染土壌の区域外への搬出時届	1	0	0	0	0
合 計	10	8	15	10	-5

(4) 大気汚染防止法（一般粉じんのみ）の発生施設数

大気汚染防止法では、粉じんによる大気汚染を未然に防止するため、法で定められた施設を設置等する場合は届出が必要となります。

区 分	平成29年度		平成30年度		前年度比	
特定施設の種類の	工場数	施設数	工場数	施設数	工場数	施設数
コークス炉	0	0	0	0	0	0
鉱物（コークスを含み、石綿を除く。以下同じ。）又は土石の堆積場	1	1	1	1	0	0
ベルトコンベア及びバケットコンベア（鉱物、土石又はセメントの用に供するものに限り、密閉式のものを除く。）	0	0	0	0	0	0
破碎機及び摩砕機（鉱物、岩石又はセメントの用に供するものに限り、湿式のものと及び密閉式のものを除く。）	1	1	1	1	0	0
ふるい（鉱物、岩石又はセメントの用に供するものに限り、湿式のものと及び密閉式のものを除く。）	0	0	0	0	0	0
合 計	2	2	2	2	0	0

(5) 騒音規制法

騒音規制法では、工場等の事業活動や建設工事に伴って発生する騒音を規制するため、法で定めた施設や建設機械等を設置、使用等する場合に届出が必要となります。

(5-1) 騒音規制法の特定施設数

区 分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		前年度比	
特定施設の種類の	工場数	施設数	工場数	施設数	工場数	施設数	工場数	施設数
金属加工機械（注1）	23	142	24	145	24	147	0	2
空気圧縮機及び送風機	55	516	55	503	57	500	2	-3
土石用又は鉱物用破碎機（注2）	6	24	6	24	6	24	0	0
織機	0	0	0	0	0	0	0	0
建設用資材製造機械（注3）	0	1	0	1	0	1	0	0
穀物用製粉機	0	3	0	3	0	3	0	0
木材加工機械（注4）	4	10	4	10	4	10	0	0
抄紙機	0	0	0	0	0	0	0	0
印刷機械	8	12	8	12	8	12	0	0
合成樹脂用射出成形機	2	12	2	12	2	12	0	0
鋳造型機	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	98	720	99	710	101	709	2	-1

注1 金属加工機械

- イ 圧延機械
- ロ 製缶機械
- ハ ベンディングマシン
- ニ 液圧プレス
- ホ 機械プレス
- ヘ せん断機
- ト 鍛造機
- チ ワイヤーホーミングマシン
- リ ブラスト
- ヌ タンブラー
- ル 切断機

注2 土石鉱物用破碎機等

- イ 破碎機
- ロ 摩砕機
- ハ ふるい及び分級機

注3 建設用資材製造機械

- イ コンクリートプラント
- ロ アスファルトプラント

注4 木材加工機械

- イ ドラムバーカー
- ロ チッパー
- ハ 碎木機
- ニ 帯のこ盤
- ホ 丸のこ盤
- ヘ かんな盤

(5-2) 騒音規制法届出状況

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度比
特定工場等関係届出	件数	件数	件数	件数
特定施設の設置届出書	2	2	3	1
特定施設の種類の数変更届出書	1	3	3	0
騒音の防止の方法変更届出書	0	0	0	0
氏名（名称、住所、所在地）変更届出書	7	3	7	4
特定施設使用全廃届出書	3	0	1	1
承継届出書	2	0	0	0
計	15	8	14	6
特定建設作業関係届出	件数	件数	件数	前年度比
くい打機等を使用する作業	1	1	0	-1
びょう打機を使用する作業	0	0	0	0
さく岩機を使用する作業	32	25	28	3
空気圧縮機を使用する作業	2	6	1	-5
コンクリートプラント、アスファルトプラント	0	0	0	0
バックホウ	6	0	0	0
トラクターショベル	0	0	0	0
ブルドーザー	0	0	0	0
計	41	32	29	-3

(6) 振動規制法

振動規制法では、工場等の事業活動や建設工事に伴って発生する振動を規制するため、法で定めた施設や建設機械等を設置、使用等する場合に届出が必要となります。

(6-1) 振動規制法の特定施設数

区 分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		前年度比	
特定施設の種類の	工場数	施設数	工場数	施設数	工場数	施設数	工場数	施設数
金属加工機械（注1）	31	200	32	203	32	205	0	2
圧縮機	30	262	30	258	31	262	1	4
土石用又は鉱物用破砕機（注2）	8	18	8	18	8	18	0	0
織機	0	0	0	0	0	0	0	0
建設用資材製造機械（注3）	0	0	0	0	0	0	0	0
木材加工機械（注4）	5	5	5	5	5	5	0	0
印刷機械	0	0	0	0	0	0	0	0
ゴム練用又は合成樹脂練用のロール機	0	0	0	0	0	0	0	0
合成樹脂用射出成形機	2	13	2	13	2	13	0	0
鋳造機	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	76	498	77	497	78	503	1	6

注1 金属加工機械

イ 液圧プレス

ロ 機械プレス

ハ セン断機

ニ 鍛造機

ホ ワイヤーホーミングマシン

注3 建設用資材製造機械

イ コンクリートプラントブロックマシン

ロ コンクリート管製造機械

ハ コンクリート柱製造機械

注4 木材加工機械

イ ドラムバーカー

ロ チッパー

注2 土石鉱物用破砕機等

イ 破砕機

ロ 摩砕機

ハ ふるい及び分級機

(6-2) 振動規制法届出状況

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度比
特定工場等関係届出	件数	件数	件数	件数
特定施設の設置届出書	0	1	2	1
特定施設使用届出書	0	0	0	0
特定施設の使用の方法変更届出書	0	0	0	0
特定施設の種類の数変更届出書	1	2	3	1
振動の防止の方法変更届出書	0	0	0	0
氏名（名称、住所、所在地）変更届出書	5	3	5	2
特定施設使用全廃届出書	1	0	1	1
承継届出書	2	0	0	0
計	9	6	11	5
特定建設作業関係届出	件数	件数	件数	件数
くい打機等を使用する作業	3	1	0	-1
鋼球を使用して破壊する作業	1	0	0	0
舗装盤破砕機を使用する作業	0	0	1	1
ブレーカーを使用する作業	25	15	25	10
計	29	16	26	10

第3章 公害苦情発生状況

- 1 公害苦情件数の推移
- 2 用途地域別苦情件数
- 3 業種別苦情件数

第3章 公害苦情発生状況

1 公害苦情件数の推移

公害苦情件数は、年々減少傾向にあります。近年は80件前後で推移しています。公害苦情の内訳は、騒音・ばい煙・悪臭が多数を占めています。

年 度		騒音	振動	水質汚濁	ばい煙	粉じん	ガス	悪臭	土壌	その他※	計
平成22年度	発生件数	40	3	1	42	3	1	20	0	6	116
	処理件数	36	3	1	42	3	1	18	0	6	110
平成23年度	発生件数	53	1	2	35	7	0	9	0	6	113
	処理件数	52	1	2	35	5	0	9	0	5	109
平成24年度	発生件数	47	5	0	31	7	0	21	1	2	114
	処理件数	45	5	0	31	7	0	21	1	2	112
平成25年度	発生件数	46	5	0	23	4	0	11	0	4	93
	処理件数	46	5	0	23	4	0	11	0	4	93
平成26年度	発生件数	55	0	0	30	0	0	16	1	0	102
	処理件数	55	0	0	30	0	0	16	1	0	102
平成27年度	発生件数	38	1	1	36	0	0	8	0	1	85
	処理件数	36	1	1	36	0	0	7	0	1	82
平成28年度	発生件数	42	3	0	23	1	0	7	1	0	77
	処理件数	44	3	0	23	1	0	7	1	0	79
平成29年度	発生件数	39	2	0	26	4	0	7	1	1	80
	処理件数	38	2	0	26	4	0	7	1	1	79
平成30年度	発生件数	36	2	0	14	7	0	17	0	0	76
	処理件数	35	2	0	14	7	0	16	0	0	74

※その他には、光害や電波障害などが含まれます。

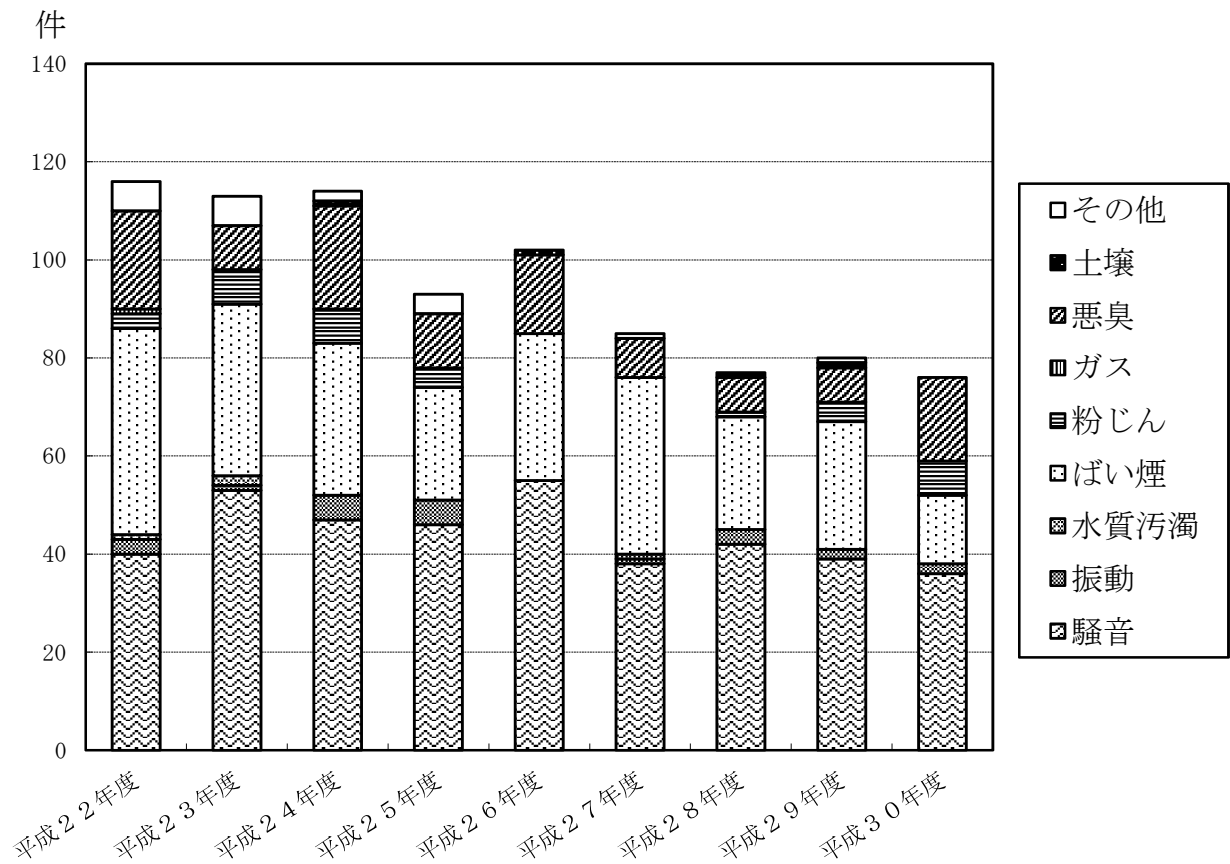


図 公害苦情件数の推移

2 用途地域別苦情件数

苦情が多く発生している市街化調整区域・第1種中高層住居専用地域では、畑などで行われる屋外焼却行為によるばい煙苦情のほか、建設工事等に伴う騒音や粉じん苦情が多数を占めています。

平成30年度

区域	地域別	騒音	振動	水質汚濁	ばい煙	粉じん	ガス	悪臭	土壌	その他	計
市街化区域	第1種低層住居専用地域	6				1		3			10
	第2種低層住居専用地域										0
	第1種中高層住居専用地域	6			2	3		3			14
	第2種中高層住居専用地域	2									2
	第1種住居地域	4	1		2			2			9
	第2種住居地域	1									1
	準住居地域										0
	近隣商業地域	3	1								4
	商業地域	7									7
	準工業地域	1						2			3
	工業地域							1			1
	工業専用地域							1			1
	市街化調整区域	6			10	3		5			24
	不明										0
	合 計	36	2	0	14	7	0	17	0	0	76

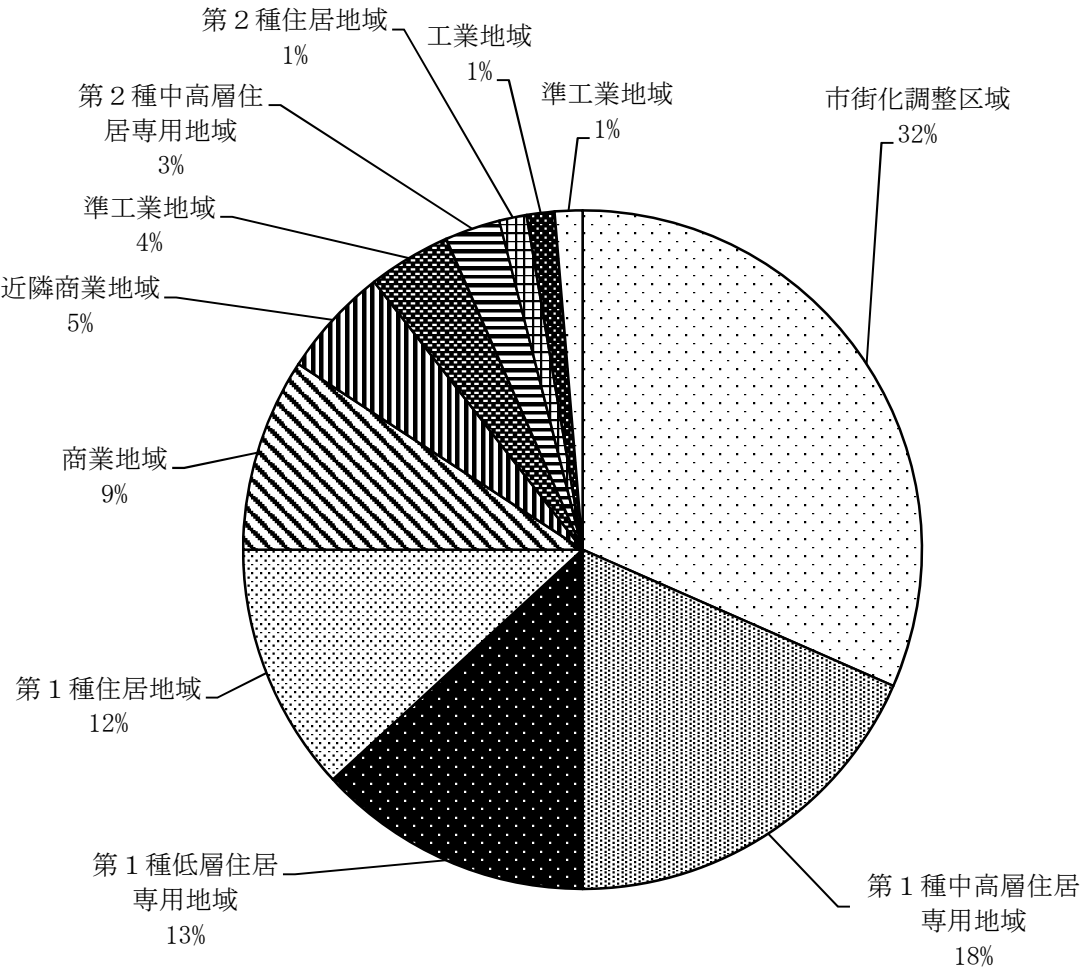


図 用途地域別苦情件数

3 業種別苦情件数

苦情の発生源は、製造業等の工場・事業場関係のものは少なく、商店・飲食店や建設・土木工事に関係するものが多いです。

また、その他に含まれている廃棄物処理業などの苦情も多いです。

平成30年度

公害苦情の種類 発生源		騒音	振動	水質汚濁	ばい煙	粉じん	ガス	悪臭	土壌	その他	計
製造事業所	食料品	1									1
	衣服その他繊維製品										0
	木材・家具装備品										0
	パルプ・紙・紙加工品										0
	化学・石油石炭製品										0
	ゴム皮革製品										0
	窯業・土石製品										0
	鉄鋼・非鉄金属製品							1			1
	機械器具製品										0
	その他の製造事業所	1						1			2
小計		2	0	0	0	0	0	2	0	0	4
耕種農業					3			1			4
農業・園芸サービス											0
修理工場											0
建設・土木工事業 (土工工事)		5	1			3		1			10
建設・土木工事業 (資材置場・作業場)		4				3					7
道路貨物運送業											0
娯楽・遊具スポーツ施設		3									3
商店・飲食店		10	1					3			14
商店・飲食店 (カラオケ)		1									1
事務所											0
その他		9			3	1		2			15
交通機関											0
下水清掃事業											0
家庭生活					2						2
不明		2			6			8			16
小計		34	2	0	14	7	0	15	0	0	72
合計		36	2	0	14	7	0	17	0	0	76

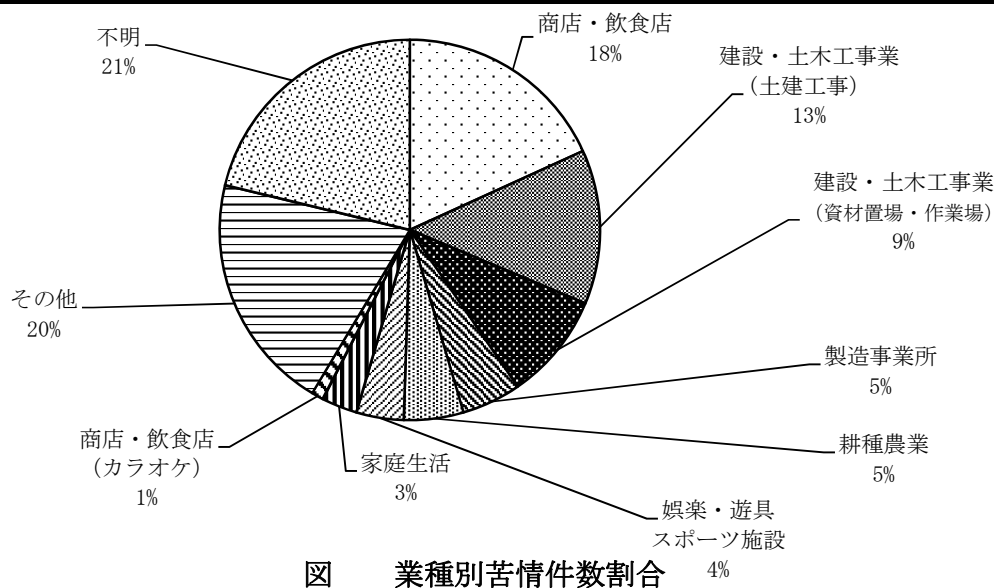


図 業種別苦情件数割合

第4章 公害の現況

- 1 大気汚染
- 2 水質汚濁
- 3 騒音・振動
- 4 地盤沈下

4－1 大 気 汚 染

- (1) 大気汚染常時監視
- (2) 光化学大気汚染緊急時措置
- (3) 窒素酸化物測定
- (4) ダイオキシン類
- (5) 有害大気汚染物質

(1) 大気汚染常時監視

大気汚染防止法に基づき、神奈川県が茅ヶ崎市役所分庁舎1階に設置している一般局（一般環境測定局）と国道1号線茅ヶ崎市役所前に設置している自排局（自動車排出ガス測定局）において大気汚染を常時監視しています。

その結果、光化学オキシダントを除く全ての項目で環境基準を達成してます。

また、光化学オキシダントを除く全ての項目で年平均値が若干ながら低下傾向にあります。

なお、光化学オキシダントは、測定開始して以来、環境基準を達成したことはありません。

(1) - 1 環境基準の達成状況（平成30年度）

（－は測定していない項目を示します。）

物質名	環 境 上 の 条 件	一般環境	自排局
二酸化硫黄	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。	達成	－
二酸化窒素	1時間値の1日平均値が0.04～0.06ppmのゾーン内またはそれ以下であること。	達成	達成
光化学オキシダント	1時間値が0.06ppm以下であること。	非達成	－
一酸化炭素	1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が、20ppm以下であること。	－	達成
浮遊粒子状物質	1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。	※1	達成
微小粒子状物質 (PM2.5)	1年平均値が15μg/m ³ 以下であり、かつ、1日平均値が35μg/m ³ 以下であること。	－	達成

(1) - 2 環境基準長期的・短期的評価と達成状況（平成30年度）

（－は測定していない項目を示します。）

物質名	区分	環 境 上 の 条 件	一般環境	自排局
二酸化硫黄	長期的評価	年間にわたる日平均値につき、測定値の高い方から2%の範囲内にあるものを除外した日平均値が0.04ppmを超えず、かつ、年間を通じて日平均値が0.04ppmを超える日が2日以上連続しないこと。	達成	－
	短期的評価	日平均値がすべての有効測定日数で0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。	達成	－
二酸化窒素		年間にわたる日平均につき、測定値の低い方から98%に相当するものが0.06ppm以下であること。	達成	達成
光化学オキシダント		1時間値が0.06ppm以下であること。（昼間の時間帯5時から20時）	非達成	－
一酸化炭素	長期的評価	年間にわたる日平均値につき、測定値の高い方から2%範囲内にあるものを除外した、日平均値が10ppmを超えず、かつ、年間を通じて日平均値が10ppmを超える日が2日以上連続しないこと。	－	達成
	短期的評価	日平均値がすべての有効測定日数で10ppm以下であり、かつ、8時間平均値（※）が20ppm以下であること。 （※）24時～8時、8時～16時、16時～24時までの時間帯の平均値をいう。	－	達成
浮遊粒子状物質	長期的評価	年間にわたる1日平均値につき、測定値の高い方から2%範囲内にあるものを除外した、1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、年間を通じて1日平均値が0.10mg/m ³ を超える日が2日以上連続しないこと。	※1	達成
	短期的評価	すべての1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。	※1	達成
微小粒子状物質 PM2.5	長期的評価	1年間平均値が15μg/m ³ 以下であること。	－	達成
	短期的評価	1日平均値の年間98%値を日平均値の代表値として、35μg/m ³ 以下であること。	－	達成

○ 「※1」は、有効測定時間が年間6,000時間を満たしていないことを示す。

(1) - 3 大気常時監視測定結果 (過去 10 年)

測定項目	二酸化硫黄	二酸化窒素				一酸化窒素		オキシダント	一酸化炭素	浮遊粒子状物質		微小粒子状物質 PM2.5	
測定局	一般局	一般局		自排局		一般局	自排局	一般局	自排局	一般局	自排局	自排局	
年度	年平均値	年平均値	98%値	年平均値	98%値	年平均値	年平均値	年平均値	年平均値	年平均値	年平均値	年平均値	98%値
21	0.005	0.020	0.036	0.020	0.037	0.007	0.009	0.029	0.5	0.019	0.034	—	—
22	0.004	0.018	0.036	0.018	0.035	0.006	0.007	0.028	0.5	0.019	0.033	—	—
23	0.004	0.018	0.035	0.018	0.034	0.007	0.008	0.027	0.5	0.018	0.032	15.2	35.8
24	0.004	0.017	0.035	0.017	0.032	0.006	0.007	0.029	0.5	0.016	0.026	13.8	30.2
25	0.002	0.016	0.032	0.015	0.030	0.005	0.006	0.031	0.4	0.017	0.025	14.5	38.8
26	0.001	0.016	0.031	0.015	0.029	0.005	0.006	0.030	0.4	0.016	0.025	15.0	37.5
27	0.001	0.015	0.031	0.014	0.028	0.005	0.005	0.029	0.5	0.014	0.022	13.8	29.5
28	0.001	0.013	0.029	0.015	0.030	0.003	0.004	0.032	0.3	0.014	0.018	12.6	28.3
29	0.001	0.014	0.032	0.015	0.032	0.004	0.005	0.032	0.3	0.014	0.018	12.4	28.1
30	0.001	0.012	0.030	0.013	0.033	0.003	0.004	0.032	0.3	0.015	0.019	12.6	27.7

注1 単位は、浮遊粒子状物質が mg/m^3 、その他はppmです。

注2 二酸化窒素の98%値とは、1日の平均値の1年分のデータの低い方から98%に相当するもの(365日分のデータがある場合は低い方から358番目の値)です。

注3 オキシダントの値は昼間(5～20時)の平均値、1年間で0.06ppmを超えた時間数が0の場合のみ環境基準を達成したと評価されます。

注4 23年度より自排局で微小粒子状物質(PM2.5)の測定を開始しています。

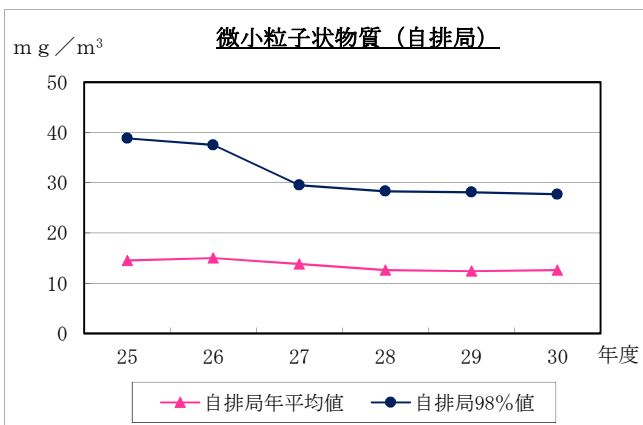
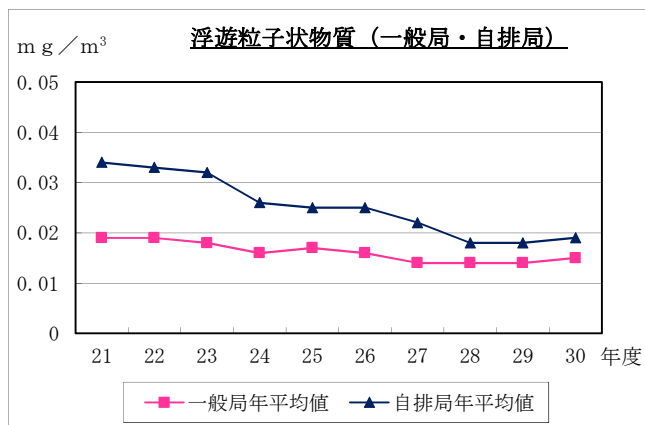
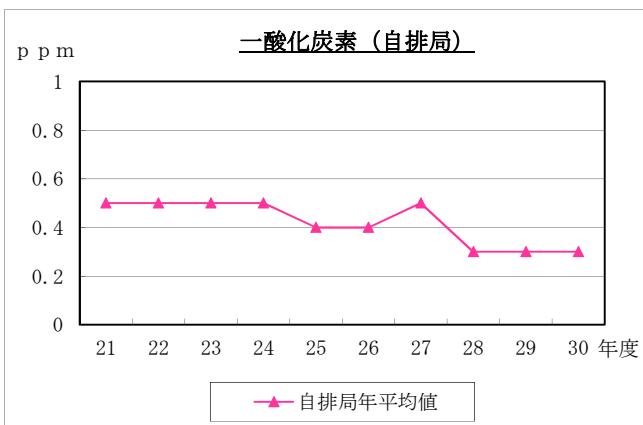
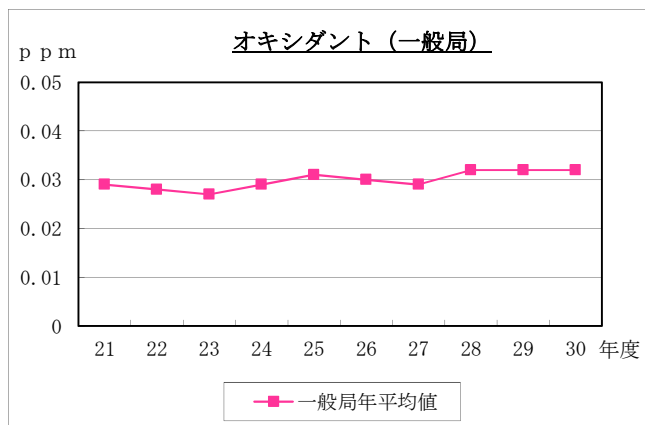
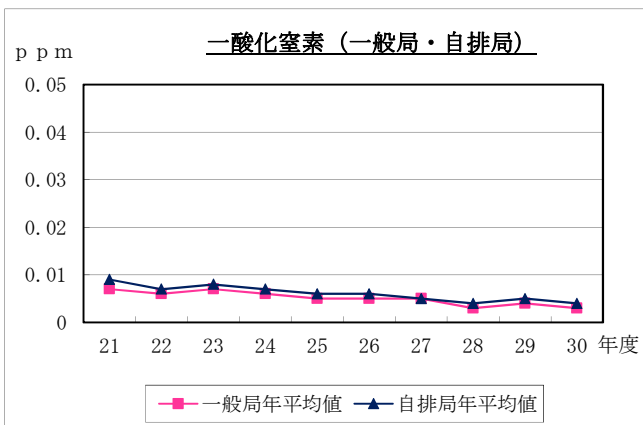
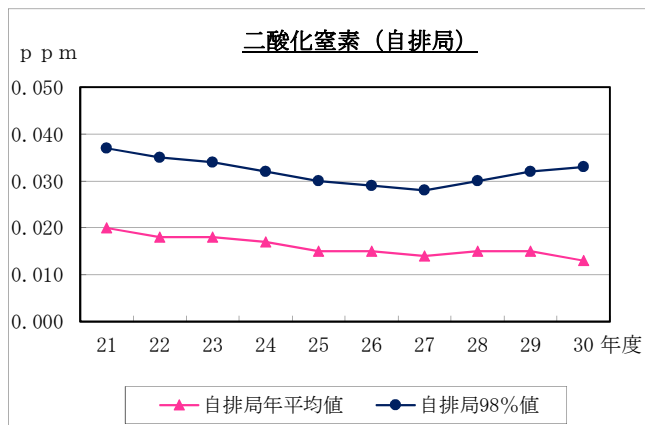
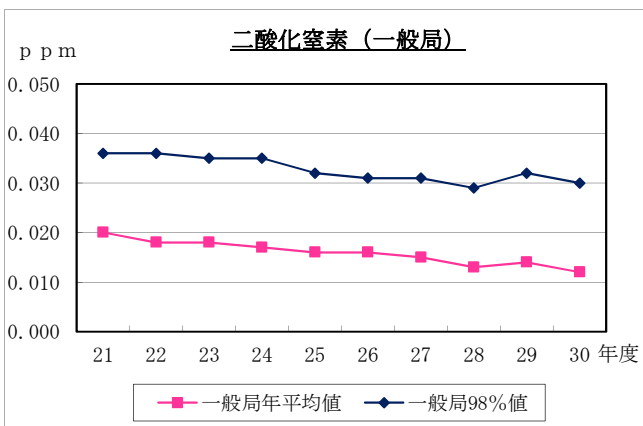
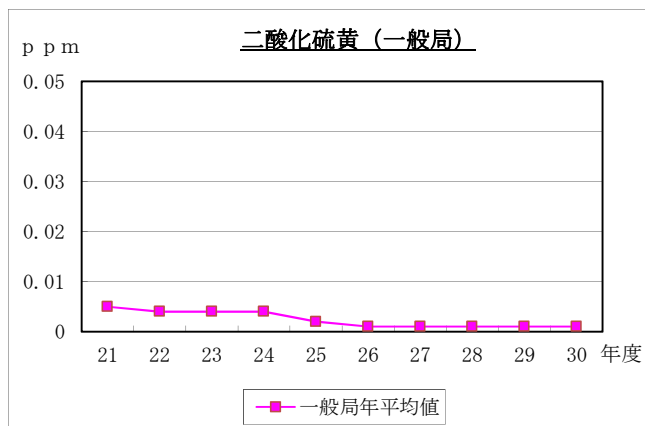


図 測定項目別の大気常時監視測定結果

(2) 光化学大気汚染緊急時措置

神奈川県大気汚染緊急時措置要綱に基づき、神奈川県が県内の光化学オキシダント濃度を確認し、地域区分ごとに光化学大気汚染緊急時措置を発令します。

茅ヶ崎市では県の発令を受けて、市民の皆さんに防災無線などで情報提供しています。

光化学大気汚染緊急時措置の発令基準及び解除基準

		注意報	警報	重大警報
光化学オキシダント	発令基準 (気象条件からみて各欄の基準が継続すると認められることを条件とする)	1 時間値 0. 1 2 p p m以上である大気の大気汚染の状態になったとき	1 時間値 0. 2 4 p p m以上である大気の大気汚染の状態になったとき	1 時間値 0. 4 p p m以上である大気の大気汚染の状態になったとき
	解除基準 (気象条件からみて各欄の基準が継続すると認められることを条件とする)	発令基準未満となったとき	1 発令基準未満となったにもかかわらず、なお汚染が継続すると予想されるときは注意報に切り換える 2 注意報の発令基準未満となり、その状況が継続すると認められるときは注意報に切り換えることなく解除する	1 発令基準未満となったにもかかわらずなお汚染が継続すると予想されるときは警報または注意報に切り換える 2 注意報の発令基準未満となり、その状況が継続すると認められるときは警報または注意報に切り換えることなく解除する

光化学大気汚染緊急時措置等の発令地域区分

地域	市町村	地域	市町村
横浜	横浜市	西 湘 (2 市 8 町)	小田原市 南足柄市 中井町 大井町 松田町 山北町 開成町 箱根町 真鶴町 湯河原町
川崎	川崎市		
相模原	相模原市		
横須賀	横須賀市		
三浦	三浦市		
湘 南 (5 市 4 町)	平塚市 鎌倉市 藤沢市 茅ヶ崎市 逗子市 葉山町 寒川町 大磯町 二宮町	県 央 (7 市 1 町 1 村)	秦野市 厚木市 大和市 伊勢原市 海老名市 座間市 綾瀬市 愛川町 清川村

(2) - 1 光化学大気汚染緊急時措置の発令状況 (平成30年度)

茅ヶ崎市が含まれる湘南地域の発令は注意報が1日ありましたが、市内の測定局が最高濃度を記録した日はありません。

回数	月日	発令～解除時刻	発令地域	緊急時措置の区分	光化学オキシダント最高濃度の状況	
					濃度 (ppm)	測定局
1	6月9日	14:20～17:20	川崎	注意報	0.130	高津区生活文化会館
2	7月14日	13:20～17:20	川崎	注意報	0.133	高津区生活文化会館
3	7月24日	14:20～17:20	横浜	注意報	0.136	戸塚区汲沢小
		16:20～17:20	川崎	注意報	0.122	麻生区弘法松
		15:20～19:20	相模原	注意報	0.152	相模原市津久井
		15:20～18:20	西湘	注意報	0.137	箱根町宮城野
		14:20～18:20	県央	注意報	0.138	愛川町角田
4	8月2日	12:20～19:20	横浜	注意報	0.158	南区横浜商業
		13:20～19:20	川崎	注意報	0.164	中原保健福祉C
5	8月3日	12:20～18:30	横浜	注意報	0.209	鶴見区生麦小
		13:20～18:30	川崎	注意報	0.185	大師分室
		14:20～20:20	相模原	注意報	0.168	相模原市津久井
		12:20～17:20	横須賀	注意報	0.156	横須賀市追浜行政センター
		13:20～20:20	湘南	注意報	0.162	平塚市旭小
		13:20～20:20	西湘	注意報	0.187	小田原市役所
		13:20～20:50	県央	注意報	0.178	秦野市役所
6	8月6日	14:40～16:40	横浜	注意報	0.126	泉区総合庁舎
7	8月27日	13:20～16:20	川崎	注意報	0.131	麻生区弘法松
8	9月17日	15:40～17:20	横須賀	注意報	0.130	横須賀市追浜行政センター
		13:20～16:00	三浦	注意報	0.154	三浦市城山

注 太字は、湘南地域（茅ヶ崎市が含まれる地域）に注意報等が発令されたことを示します。

(2) - 2 光化学大気汚染緊急時措置の経年変化

平成30年度に発令した緊急時措置により、健康被害を届出した人は茅ヶ崎市内にいませんでした。市内では、平成22年以降、健康被害を届出した人はいません。

	年度	15	16	17	18	19	20	21	22
神奈川県	発令日数	6	16	7	14	20	11	4	10
	被害の発生日数	2	3	2	5	3	2	2	2
	被害の届出者数	17	4	276	199	4	14	5	26
茅ヶ崎市	発令日数	2	5	3	12	7	5	2	7
	被害の発生日数	0	0	0	0	0	0	0	1
	被害の届出者数	0	0	0	0	0	0	0	*5

	年度	23	24	25	26	27	28	29	30
神奈川県	発令日数	5	5	16	9	10	6	8	8
	被害の発生日数	1	0	3	0	0	0	0	2
	被害の届出者数	1	0	75	0	0	0	0	13
茅ヶ崎市	発令日数	4	0	10	3	3	3	4	1
	被害の発生日数	0	0	0	0	0	0	0	0
	被害の届出者数	0	0	0	0	0	0	0	0

注 茅ヶ崎市内における被害の届出者数は神奈川県の届出者数にも含まれます。

(3) 窒素酸化物測定

大気中の窒素酸化物を把握するため、P T I O法により測定しました。

市内全域は市内を9メッシュに分割し年4回、交通量の多い国道134号線および市道0121号線（鉄砲通り）路線沿いは年2回測定しました。

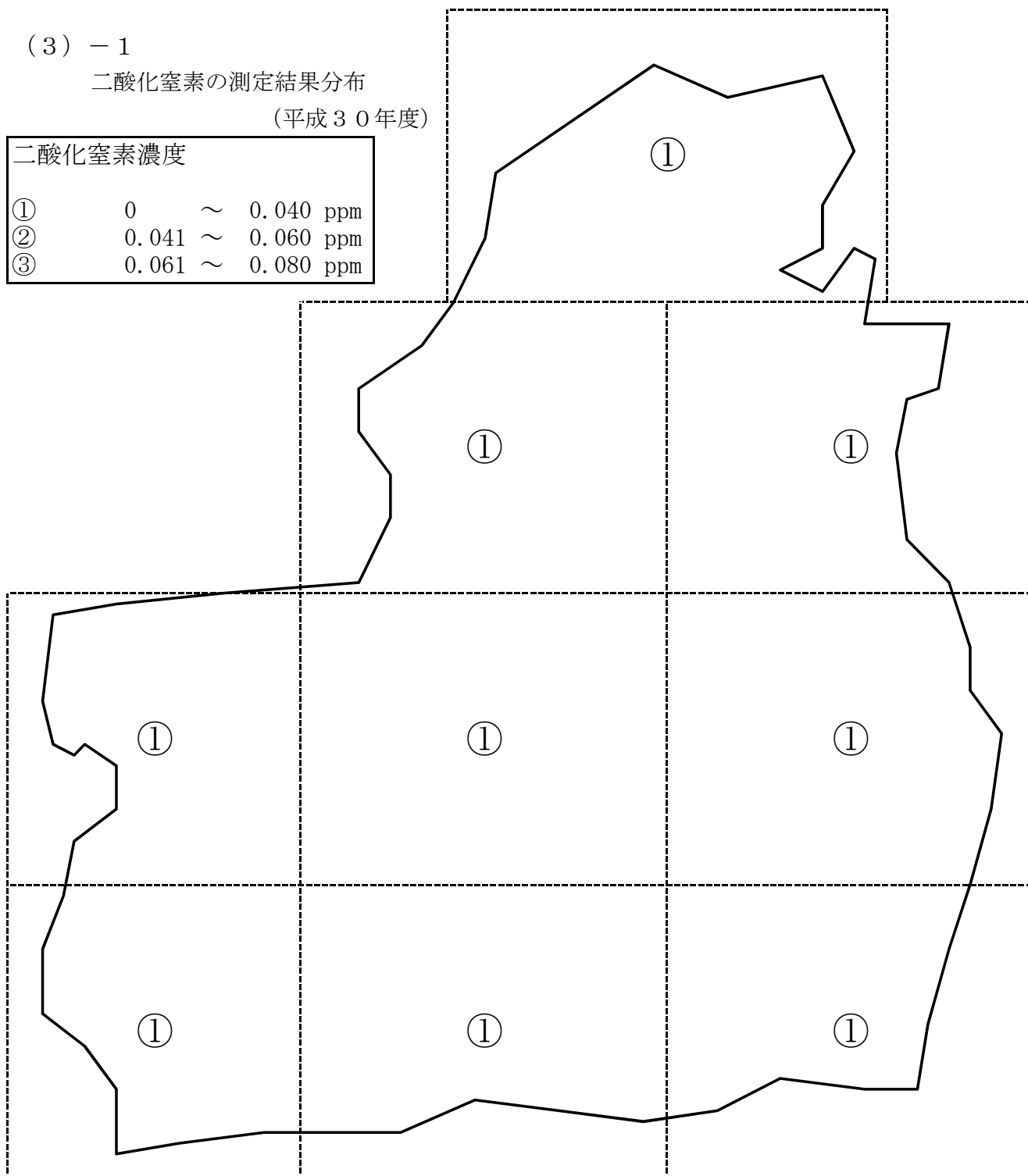
測定の結果、市内全域及び交通量の多い路線沿いともに濃度区分が最も低い区分に分類されました。

(3) - 1

二酸化窒素の測定結果分布

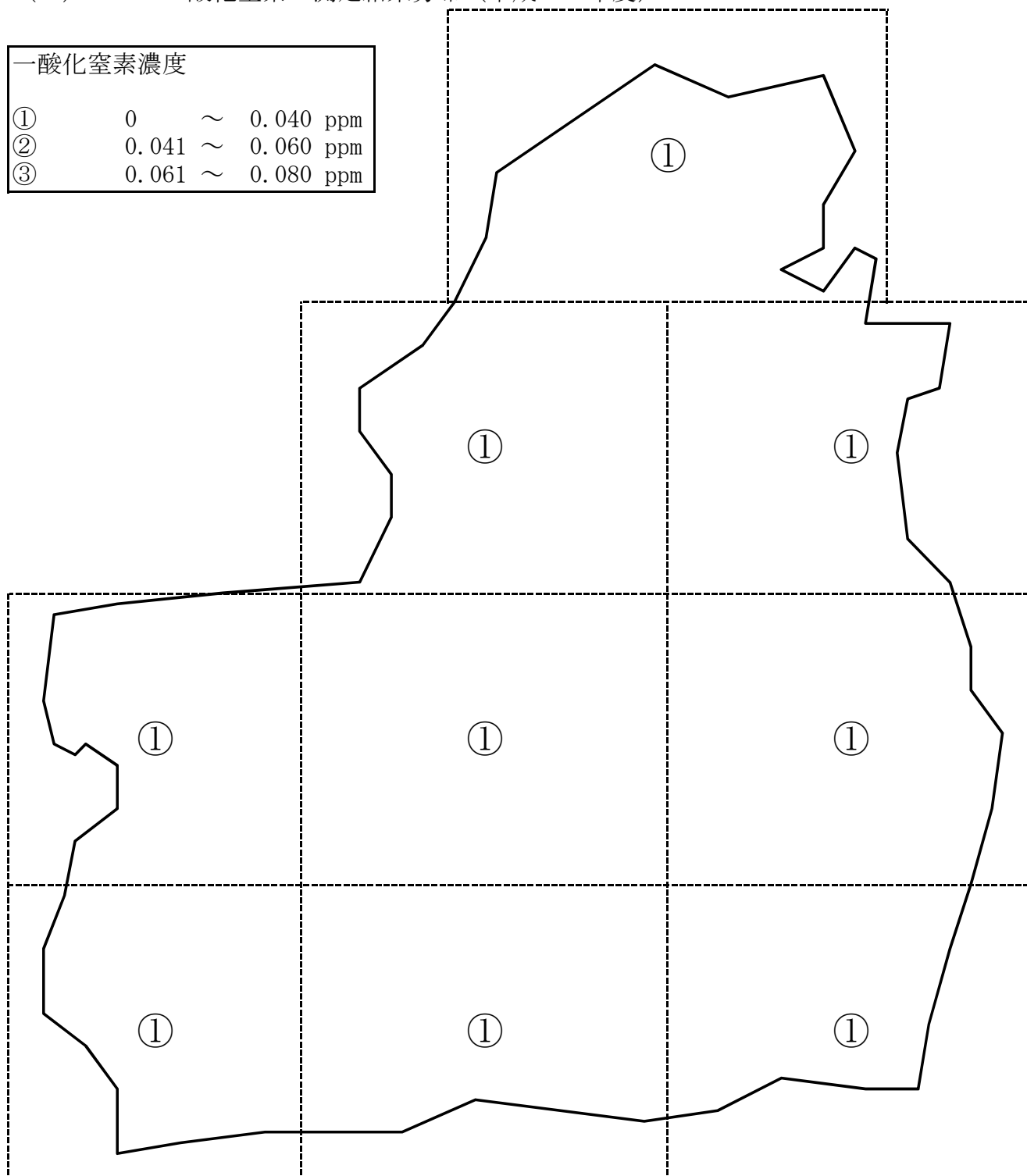
(平成30年度)

二酸化窒素濃度			
①	0	～	0.040 ppm
②	0.041	～	0.060 ppm
③	0.061	～	0.080 ppm



(3) - 2 一酸化窒素の測定結果分布 (平成30年度)

一酸化窒素濃度			
①	0	～	0.040 ppm
②	0.041	～	0.060 ppm
③	0.061	～	0.080 ppm



(3) - 3 国道134号線・市道0121線沿線の測定結果

(夏季)

(単位:ppm)

年度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
周辺	0.021	0.016	0.036	0.007	0.009	0.009	0.009	0.022	0.019	0.012	0.015	0.034
沿線南側	0.023	0.026	0.045	0.006	0.008	0.009	0.021	0.026	0.022	0.009	0.014	0.043
沿線北側	0.031	0.019	0.036	0.009	0.010	0.015	0.009	0.027	0.023	0.014	0.022	0.031
年度	25	26	27	28	29	30						
周辺	0.004	0.006	0.024	0.006	0.005	0.004						
沿線南側	0.003	0.005	0.036	0.006	0.009	0.005						
沿線北側	0.009	0.009	0.025	0.005	0.005	0.011						

(冬季)

(単位:ppm)

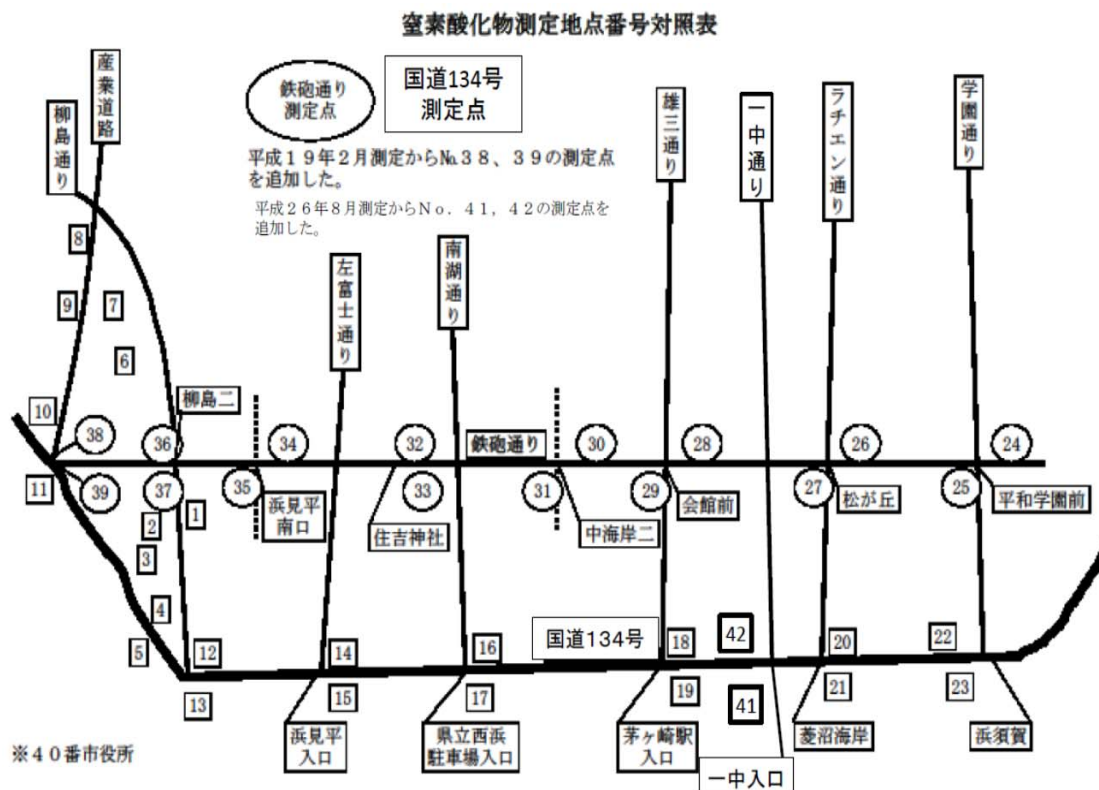
年度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
周辺	0.032	0.045	0.019	0.027	0.027	0.032	0.013	0.026	0.035	0.037	0.028	0.011
沿線南側	0.036	0.057	0.017	0.034	0.034	0.040	0.018	0.028	0.042	0.042	0.035	0.008
沿線北側	0.031	0.041	0.024	0.027	0.027	0.035	0.012	0.030	0.037	0.035	0.031	0.015
年度	25	26	27	28	29	30						
周辺	0.029	0.035	0.019	0.021	0.023	0.022						
沿線南側	0.032	0.037	0.024	0.027	0.029	0.027						
沿線北側	0.028	0.033	0.015	0.022	0.028	0.024						

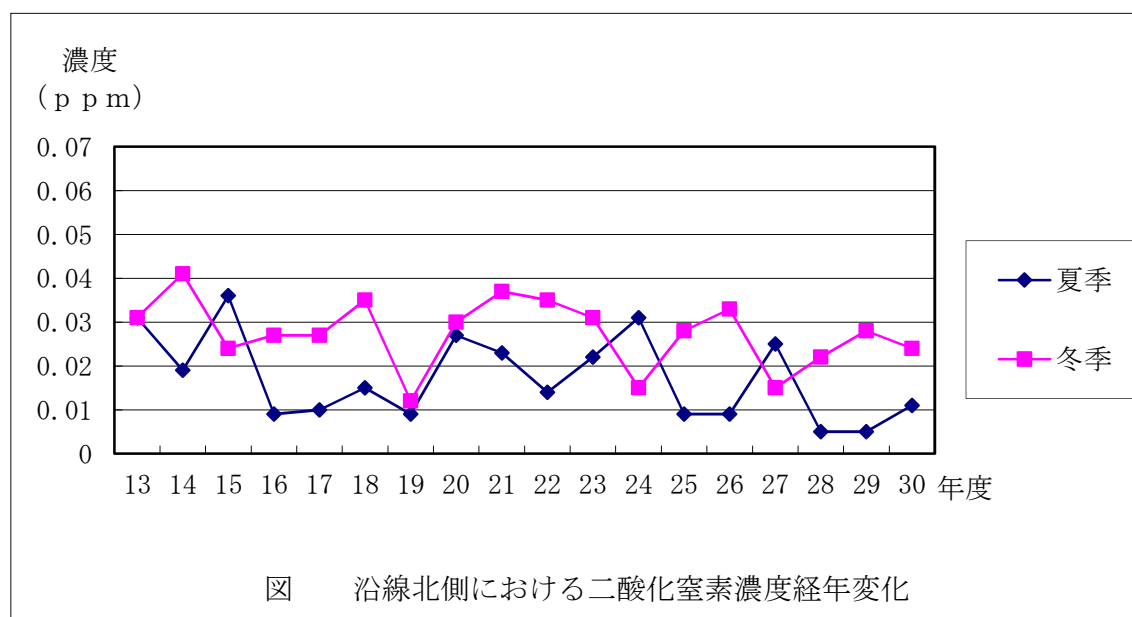
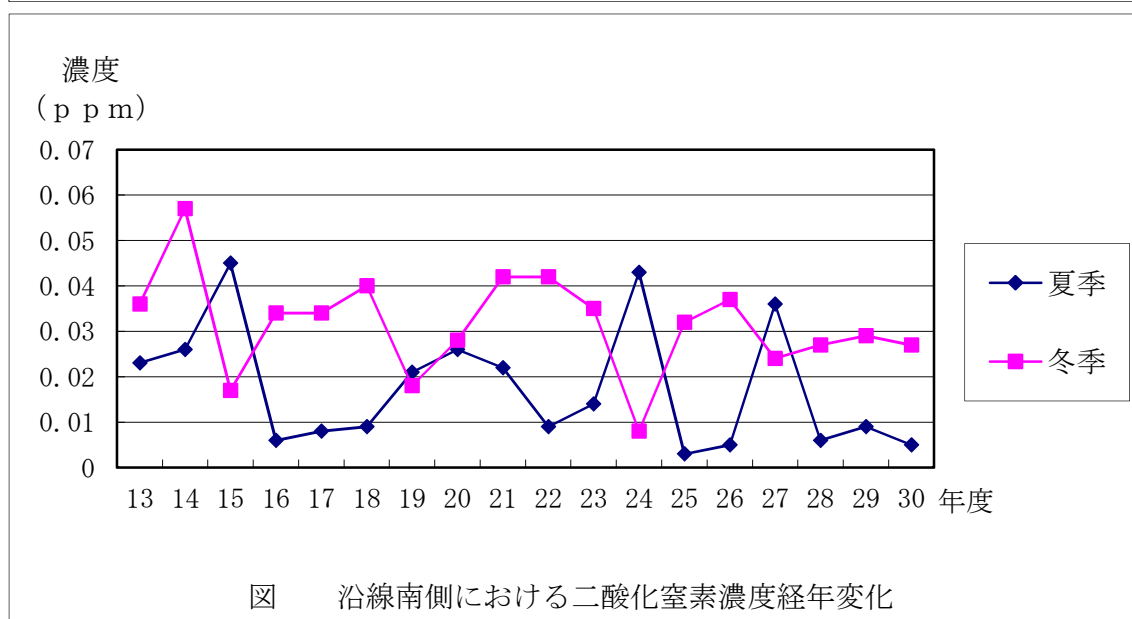
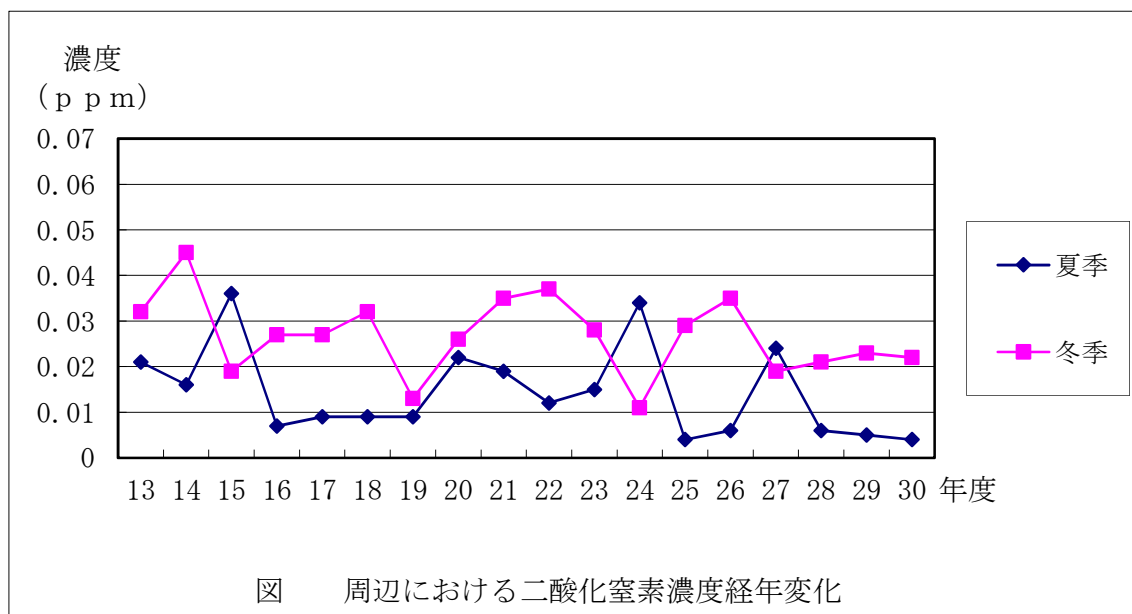
注1 周辺とは下図の1から9までの調査地点です。

注2 沿線南側とは10から23までの奇数番号地点です。

注3 沿線北側とは10から23までの偶数番号地点です。

134号線沿線二酸化窒素調査地点図





注意：測定時の気象条件（降雨や風向きなど）が異なるため、二酸化窒素濃度のばらつきが大きい場合があります。

(4) ダイオキシン類

茅ヶ崎市では、これまで市内のダイオキシン類をダイオキシン類対策特別措置法に準じて自主的な測定を実施してきましたが、環境基準を継続的に達成しているため、平成30年度から神奈川県が法に基づき行う調査により監視を行うこととしました。

一般環境大気及び土壌中ダイオキシン類経年測定結果一覧

これまでに環境基準を超過した結果はありません。

ア) 一般環境大気

(単位: pg-TEQ/m³)

調 査 地 点	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	環境基準値
松林公民館	0.13	0.32	0.12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.6
芹沢スポーツ広場	0.15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
鶴嶺公民館	0.12	0.29	0.16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.026	—	—	—	—	
海岸青少年会館	0.10	—	0.13	0.066	0.049	0.063	—	—	—	—	0.023	—	—	—	—	—	—	—	
小和田公民館	0.11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.014	—	0.020	—	—	—	
茅ヶ崎市役所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
福祉会館	—	0.24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
茅ヶ崎市役所 小出支所	—	0.29	0.13	0.080	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.016	
つつじ学園	—	0.26	0.11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
小和田地区コミュニティセンター	—	—	—	—	0.059	—	—	—	—	0.037	—	—	—	—	—	0.014	—	—	
鶴嶺東コミュニティセンター	—	—	—	—	—	0.097	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
民俗資料館(旧和田家)	—	—	—	—	—	—	0.052	—	—	—	—	0.019	—	—	—	—	—	—	
コミュニティセンター湘南	—	—	—	—	—	—	—	0.039	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
萩園いこいの里	—	—	—	—	—	—	—	—	0.038	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
茅ヶ崎市こどもセンター	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.024	—	

イ) 一般環境土壌

(単位: pg-TEQ/g)

調 査 地 点	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	環境基準値
室田第2公園	1.1	2.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,000
芹沢スポーツ広場	66	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
萩園第3公園	0.68	4.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
茅ヶ崎公園	0.68	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
小和田公民館	5.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
中央公園	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
福祉会館	—	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
小出青少年広場	—	4.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5.5	
松が丘第2公園	—	1.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
萩園第2公園	—	—	35	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
南湖第一公園	—	—	4.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
清水公園	—	—	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
富士見町公園	—	—	0.079	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
赤羽根青少年広場	—	—	2.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
高田第一公園	—	—	—	4.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
西羽根沢公園	—	—	—	2.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
円蔵第2青少年広場	—	—	—	—	0.77	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
浜之郷公園	—	—	—	—	4.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
香川第2公園	—	—	—	—	—	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
津戸田公園	—	—	—	—	—	2.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
共恵第一公園	—	—	—	—	—	—	8.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
西久保広町公園	—	—	—	—	—	—	—	2.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
萩園下河原公園	—	—	—	—	—	—	—	—	2.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
赤松公園	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.3	—	—	—	—	—	—	—	—	
中海岸第二公園	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.0	—	—	—	—	—	—	—	
下寺尾東方公園	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10	—	—	—	—	—	—	
松浪公園	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.1	—	—	—	—	—	
さくら公園	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.7	—	—	—	—	
平和町公園	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.8	—	—	—	
東小和田公園	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.98	—	—	
下町屋北公園	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.9	—	

注 本調査では、ポリ塩化ジベンゾパラジオキシン(PCDDs)、ポリ塩化ジベンゾフラン(PCDFs)及び コプラナーポリ塩化ビフェニル(Co-PCB)をまとめてダイオキシン類と称しています。

(5) 有害大気汚染物質

茅ヶ崎市では、これまで市内の有害大気汚染物質を大気汚染防止法に準じて自主的な測定を実施してきましたが、環境基準及び指針値を継続的に達成しているため、平成30年度から神奈川県が法に基づき行う調査により監視を行うこととしました。

※平成30年度より測定を休止しています。

市内一般環境大気中有害大気汚染物質経年測定結果一覧

これまでに環境基準及び指針値を超過した項目はありません。

測定年度		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
測定地点		松林公民館 芹沢スポーツ広場 鶴嶺公民館 海岸青少年会館 小和田公民館	松林公民館 茅ヶ崎市役所小出支所 鶴嶺公民館 福祉会館 つつじ学園	松林公民館 茅ヶ崎市役所小出支所 鶴嶺公民館 海岸青少年会館 つつじ学園	海岸青少年会館 茅ヶ崎市役所 小出支所	海岸青少年会館 小和田地区 コミュニティセンター	海岸青少年会館 鶴嶺東 コミュニティセンター
①	アクリロニトリル	—	—	—	0.064	<0.1	0.063
②	アセトアルデヒド	—	—	—	2.4	2.9	4.4
③	塩化ビニルモノマー	—	—	0.096	0.034	<0.1	0.017
④	クロロホルム	—	—	—	0.18	0.26	0.10
⑤	酸化エチレン	—	—	—	—	0.022	—
⑥	1, 2 - ジクロロエタン	—	—	—	0.095	<0.04	0.079
⑦	ジクロロメタン	2.2	—	—	2.5	1.7	2.9
⑧	テトラクロロエチレン	—	—	—	0.47	0.25	0.28
⑨	トリクロロエチレン	—	—	—	0.92	0.75	0.59
⑩	1, 3 - ブタジエン	—	0.46	—	0.21	0.10	0.19
⑪	ベンゼン	2.1	2.8	2.4	1.9	0.94	1.4
⑫	ベンゾ [a] ピレン	—	—	—	0.22	<0.1	—
⑬	ホルムアルデヒド	—	4.3	—	2.6	1.4	4.8
⑭	水銀及びその化合物	3.0	—	—	—	—	2.2
⑮	ニッケル化合物	—	—	6.6	—	—	3.9
⑯	ヒ素及びその化合物	—	—	—	1.2	—	—
⑰	ベリリウム及びその化合物	—	—	—	0.023	—	—
⑱	マンガン及びその化合物	—	—	—	—	28	23
⑲	クロム及びその化合物	—	—	—	—	18	4.2

測定年度		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
測定地点		民俗資料館 (旧和田家)	コミュニティセンター 湘南	茅ヶ崎市 老人憩いの家 萩園いこいの里	小和田地区 コミュニティセンター		民俗資料館 (旧和田家)
①	アクリロニトリル	—	—	0.037	0.020	0.036	0.035
②	アセトアルデヒド	2.7	2.5	—	—	4.2	3.1
③	塩化ビニルモノマー	—	0.013	0.14	0.023	—	0.020
④	クロロホルム	0.11	0.13	0.086	0.17	0.13	0.14
⑤	酸化エチレン	—	—	—	—	0.066	0.067
⑥	1, 2 - ジクロロエタン	—	0.056	0.056	0.098	0.11	0.13
⑦	ジクロロメタン	—	3.8	2.2	1.3	—	2.2
⑧	テトラクロロエチレン	—	0.15	0.34	0.19	—	0.27
⑨	トリクロロエチレン	—	0.43	0.54	0.55	—	0.43
⑩	1, 3 - ブタジエン	0.27	0.20	0.11	0.15	—	—
⑪	ベンゼン	1.8	1.3	1.3	1.3	0.80	1.3
⑫	ベンゾ [a] ピレン	—	—	—	—	0.24	—
⑬	ホルムアルデヒド	—	—	—	—	—	3.2
⑭	水銀及びその化合物	—	—	—	—	—	—
⑮	ニッケル化合物	2.3	—	—	—	—	—
⑯	ヒ素及びその化合物	2.0	—	—	1.4	0.83	—
⑰	ベリリウム及びその化合物	0.011	—	—	0.024	0.019	—
⑱	マンガン及びその化合物	24	—	—	—	30	—
⑲	クロム及びその化合物	5.4	—	—	—	4.2	—

測定年度		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
測定地点		小和田公民館	鶴嶺公民館	小和田公民館	小和田地区 コミュニティセンター	茅ヶ崎市 こどもセンター	茅ヶ崎市役所 小出支所
①	アクリロニトリル	0.057	0.035	0.028	—	0.028	0.020
②	アセトアルデヒド	3.0	—	—	2.2	1.8	3.7
③	塩化ビニルモノマー	0.037	0.040	0.022	—	—	—
④	クロロホルム	0.11	0.19	0.18	0.15	0.13	0.26
⑤	酸化エチレン	0.067	—	—	—	—	—
⑥	1, 2 - ジクロロエタン	0.061	0.079	0.098	0.13	0.037	0.059
⑦	ジクロロメタン	1.1	1.9	1.2	5.6	1.1	3.4
⑧	テトラクロロエチレン	0.14	0.32	0.16	0.059	0.027	0.058
⑨	トリクロロエチレン	0.29	0.40	0.46	0.26	0.09	0.42
⑩	1, 3 - ブタジエン	—	0.13	—	0.060	0.041	0.088
⑪	ベンゼン	0.64	1.3	0.98	0.98	0.50	1.4
⑫	ベンゾ [a] ピレン	—	—	—	—	—	—
⑬	ホルムアルデヒド	3.5	—	—	1.6	1.4	2.8
⑭	水銀及びその化合物	—	2.3	—	—	—	—
⑮	ニッケル化合物	—	2.0	—	—	—	—
⑯	ヒ素及びその化合物	—	—	—	—	—	—
⑰	ベリリウム及びその化合物	—	—	0.0078	—	—	—
⑱	マンガン及びその化合物	—	—	12	4.9	—	—
⑲	クロム及びその化合物	—	—	4.0	1.4	—	—

		大気環境基準 ※指針値
①	アクリロニトリル	※2
②	アセトアルデヒド	設定なし
③	塩化ビニルモノマー	※10
④	クロロホルム	※18
⑤	酸化エチレン	設定なし
⑥	1, 2 - ジクロロエタン	※1.6
⑦	ジクロロメタン	150
⑧	テトラクロロエチレン	200
⑨	トリクロロエチレン	200
⑩	1, 3 - ブタジエン	※2.5
⑪	ベンゼン	3
⑫	ベンゾ [a] ピレン	設定なし
⑬	ホルムアルデヒド	設定なし
⑭	水銀及びその化合物	※40
⑮	ニッケル化合物	※25
⑯	ヒ素及びその化合物	※6
⑰	ベリリウム及びその化合物	設定なし
⑱	マンガン及びその化合物	※140
⑲	クロム及びその化合物	設定なし

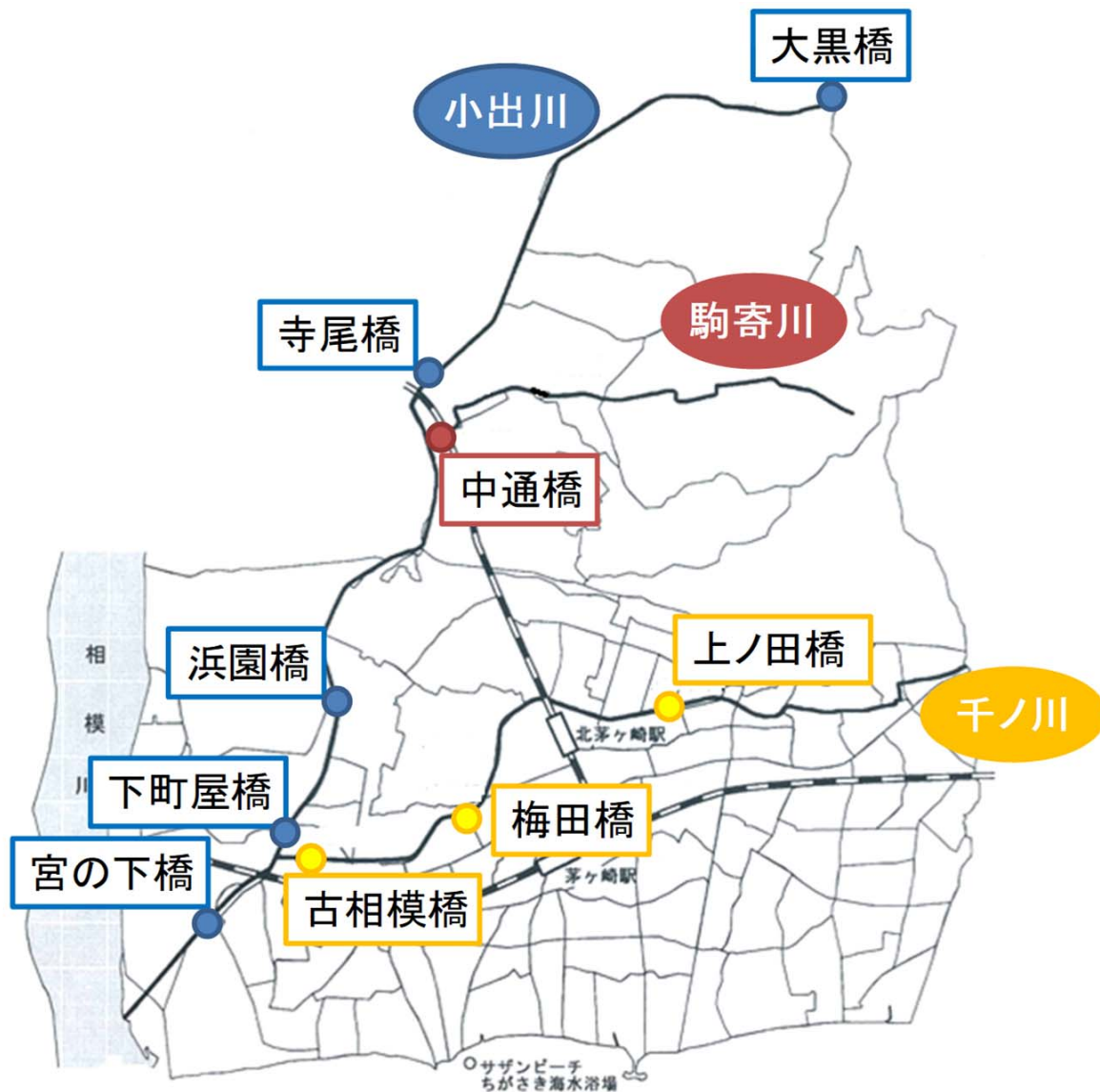
注1 単位は $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ($\mu\text{g}=0.000001\text{g}$)です。ただし、⑫、⑭～⑲は ng/m^3 ($\text{ng}=0.000000001\text{g}$)です。
注2 この一覧は各地点年4回(23年度より年2回)の値を平均した上で、さらに全測定地点(18年度より1地点)の平均値を表したものです。
注3 ーは当該年度に測定していない項目です。

※「有害大気汚染物質による健康リスクの低減を図るための指針となる数値」(指針値)を評価指標としています。
指針値とは、有害性評価に係るデータの科学的信頼性において制約がある場合も含めて検討された、環境中の有害大気汚染物質による健康リスクの低減を図るための指針となる数値であり、現に行われている大気モニタリングの評価にあたっての指標や事業者による排出抑制努力の指標としての機能を果たすことが期待されるものです。

4－2 水 質 汚 濁

- (1) 河川（法第16条の測定計画に基づく測定）
- (2) 海域（法第16条の測定計画に基づく測定）
- (3) 河川（市計画による自主測定）
- (4) 水浴場
- (5) 地下水（法第16条の測定計画に基づく測定）

河川等水質調査地点



- 【小出川】 藤沢市北部の谷戸に源を発し、本市北部の芹沢に入り、田園地帯を流れて千ノ川に合流し、その後相模川河口で相模川と合流する総延長12.7kmの河川です。定点調査では最上流の大黒橋から下流の宮の下橋まで5地点、測定計画に基づく調査でも宮の下橋で測定しています。

- 【駒寄川】 本市北部の谷戸に源を発し、北部の堤、下寺尾の田園地帯を約3.6km流下して小出川に合流しています。定点調査では小出川合流直前の中通橋で測定しています。

- 【千ノ川】 かつては、藤沢市羽鳥付近に源を発していましたが、現在は明確な源流はありません。国道1号線に平行して西に向い約6.2km流下して小出川に合流しています。定点調査では、本村の上ノ田橋から小出川合流前の古相模橋まで3地点を測定しています。

(1) 河川（法第16条の測定計画に基づく測定）

小出川の環境基準は平成30年6月に類型指定が行われ、環境基準（河川B類型及び生物B類型）として評価しました。

年12回測定した結果、BOD（75%値で評価）、SS（平均値で評価）及び大腸菌群数（平均値で評価）で環境基準を超過しました。

区分	測定項目（単位）	水域（支川） 類型 測定地点	相模川（小出川） 河川（B） 宮の下橋				環境基準 （判定値）
			平均値	最小値	最大値	m/n	
			測定値				
生活環境項目	pH		7.8	7.4	8.1	0/12	6.5以上8.5以下
	BOD (mg/L)		7.3 (75%値：5.7)	1.3	42	8/12	3以下
	COD (mg/L)		7.5 (75%値：7.4)	4.3	21	*/12	—
	SS (mg/L)		44	12	220	7/12	25以下
	DO (mg/L)		6.9	4.5	9.7	1/12	5以上
	大腸菌群数 (MPN/100ml)		738, 583	13, 000	7, 900, 000	12/12	5000以下
	n-ヘキサン抽出物質 (mg/L)		<0.5	<0.5	<0.5	*/2	—
	全窒素 (mg/L)		3.5	2.2	5.4	*/12	—
	全磷 (mg/L)		0.36	0.20	1.2	*/12	—
	全亜鉛 (mg/L)		0.028	0.012	0.12	*/12	—
	ノニルフェノール (mg/L)		0.00078	0.00045	0.0011	*/2	—
	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩 (mg/L)		0.027	<0.0006	0.054	*/2	—
健康項目	カドミウム (mg/L)		0.0003	<0.0003	0.0006	0/12	0.003以下
	全シアン (mg/L)		不検出	不検出	不検出	0/12	検出されないこと
	鉛 (mg/L)		0.005	<0.005	0.009	0/12	0.01以下
	六価クロム (mg/L)		<0.02	<0.02	<0.02	0/12	0.05以下
	砒素 (mg/L)		<0.005	<0.005	<0.005	0/12	0.01以下
	総水銀 (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	0/12	0.0005以下
	ポリ塩化ビフェニル (mg/L)		不検出	不検出	不検出	0/2	検出されないこと
	ジクロロメタン (mg/L)		<0.0002	<0.0002	<0.0002	0/2	0.02以下
	四塩化炭素 (mg/L)		<0.0002	<0.0002	<0.0002	0/12	0.002以下
	1, 2-ジクロロエタン (mg/L)		<0.0002	<0.0002	<0.0002	0/2	0.004以下
	1, 1-ジクロロエチレン (mg/L)		<0.0002	<0.0002	<0.0002	0/2	0.1以下
	シス-1, 2-ジクロロエチレン (mg/L)		0.0003	<0.0002	0.0004	0/2	0.04以下
	1, 1, 1-トリクロロエタン (mg/L)		<0.0002	<0.0002	<0.0002	0/12	
	1, 1, 2-トリクロロエタン (mg/L)		<0.0002	<0.0002	<0.0002	0/2	0.006以下
	トリクロロエチレン (mg/L)		<0.0002	<0.0002	<0.0002	0/12	0.01以下
	テトラクロロエチレン (mg/L)		<0.0002	<0.0002	<0.0002	0/12	0.01以下
	1, 3-ジクロロプロペン (mg/L)		<0.0004	<0.0004	<0.0004	0/2	0.002以下
	チウラム (mg/L)		<0.0006	<0.0006	<0.0006	0/2	0.006以下
	シマジン (mg/L)		<0.0003	<0.0003	<0.0003	0/2	0.003以下
	チオベンカルブ (mg/L)		<0.002	<0.002	<0.002	0/2	0.02以下
	ベンゼン (mg/L)		<0.0002	<0.0002	<0.0002	0/2	0.01以下
	セレン (mg/L)		<0.002	<0.002	<0.002	0/2	0.01以下
	ふっ素 (mg/L)		0.09	<0.08	0.11	0/6	0.8以下
	ほう素 (mg/L)		0.04	0.03	0.05	0/6	1以下
	1, 4-ジオキサン (mg/L)		<0.005	<0.005	<0.005	0/2	0.05以下
	亜硝酸性窒素 (mg/L)		0.12	<0.05	0.26	*/12	—
	硝酸性窒素 (mg/L)		1.8	1.1	3.7	*/12	—
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)		1.9	1.2	3.7	0/12	10以下
特殊項目	フェノール類 (mg/L)		0.008	<0.005	0.015	0/6	(0.5以下)
	銅 (mg/L)		0.01	<0.01	0.03	0/6	(0.3以下)
	溶解性鉄 (mg/L)		0.22	0.12	0.29	0/6	(1以下)
	溶解性マンガン (mg/L)		0.08	<0.01	0.16	0/6	(1以下)
	クロム (mg/L)		<0.02	<0.02	<0.02	0/2	(0.2以下)
	EPN (mg/L)		<0.0006	<0.0006	<0.0006	0/2	(0.1以下)
	ニッケル (mg/L)		<0.008	<0.008	<0.008	*/2	—
その他の項目	アンモニア性窒素 (mg/L)		0.75	0.19	1.7	*/12	—
	磷酸態磷 (mg/L)		0.25	0.14	0.53	*/12	—
	電気伝導率 (mS/m)		92	29	560	*/12	—
	塩化物イオン (mg/L)		200	20	1700	*/12	—
	陰イオン界面活性剤 (mg/L)		0.04	<0.03	0.08	*/6	—
観測項目	透視度 (cm)		25.8	9.0	>30.0	*/12	—
	気温 (℃)		19.7	7.4	34.0	*/12	—
	水温 (℃)		19.5	8.7	30.1	*/12	—
	流量 (m ³ /s)		1.39	0.58	2.8	*/12	—

注1 pHからDOの平均値（最小値・最大値）及び観測項目については、日間平均値の年間平均値（最小値・最大値）です。

注2 m/nは基準値等を超えた検体数/調査検体数（m：*は判定基準なし）です。

注3 75%値は日間平均値の年間全データ（n件）を小さいものから順に並べたときの0.75×n番目のデータ値です。

注4 特殊項目の判定値（環境基準の欄）は排水基準を定める総理府令に定める値の1/10としています。

注5 EPNの判定値（環境基準の欄）は環境庁の定めた要監視項目指針値を用いています。

注6 平均値算出の際には、報告下限値以下の値は報告下限値として算出しています。

(2) 海域 (法第16条の測定計画に基づく測定)

年12回測定した結果、環境基準を超過した項目はありません。

区分			相模湾(2)				環 境 基 準 (判定値)
			海 域 A				
			茅ヶ崎沖 (緯度N35° 18' 06" 経度E139° 23' 49")				
	測定項目 (単位)	測定値	平均値	最小値	最大値	m/n	
生活環境項目	p H		8. 2	8. 1	8. 3	0/12	7. 8以上8. 3以下
	C O D	(mg/L)	1. 1 (75%値 : 1. 2)	0. 5	2. 4	1/12	2以下
	D O	(mg/L)	7. 6	6. 9	9. 2	6/12	7. 5以上
	大腸菌群数	(MPN/100ml)	54	<2	490	0/12	1000以下
	n－ヘキサン抽出物質	(mg/L)	不検出	不検出	不検出	0/12	検出されないこと
	全窒素	(mg/L)	0. 23	0. 11	0. 50	*/12	－
	全磷	(mg/L)	0. 019	0. 011	0. 030	*/12	－
	全亜鉛	(mg/L)	0. 004	0. 001	0. 007	*/12	－
健康項目	カドミウム	(mg/L)	<0. 0003	<0. 0003	<0. 0003	0/6	0. 003以下
	全シアン	(mg/L)	不検出	不検出	不検出	0/6	検出されないこと
	鉛	(mg/L)	<0. 0005	<0. 0005	<0. 0005	0/6	0. 01以下
	六価クロム	(mg/L)	<0. 02	<0. 02	<0. 02	0/6	0. 05以下
	砒素	(mg/L)	<0. 001	<0. 001	<0. 001	0/6	0. 01以下
	総水銀	(mg/L)	<0. 0005	<0. 0005	<0. 0005	0/6	0. 0005以下
	P C B	(mg/L)	不検出	不検出	不検出	0/2	検出されないこと
	ジクロロメタン	(mg/L)	<0. 0002	<0. 0002	<0. 0002	0/2	0. 02以下
	四塩化炭素	(mg/L)	<0. 0002	<0. 0002	<0. 0002	0/2	0. 002以下
	1, 2－ジクロロエタン	(mg/L)	<0. 0002	<0. 0002	<0. 0002	0/2	0. 004以下
	1, 1－ジクロロエチレン	(mg/L)	<0. 0002	<0. 0002	<0. 0002	0/2	0. 1以下
	シス－1, 2－ジクロロエチレン	(mg/L)	<0. 0002	<0. 0002	<0. 0002	0/2	0. 04以下
	1, 1, 1－トリクロロエタン	(mg/L)	<0. 0002	<0. 0002	<0. 0002	0/2	1以下
	1, 1, 2－トリクロロエタン	(mg/L)	<0. 0002	<0. 0002	<0. 0002	0/2	0. 006以下
	トリクロロエチレン	(mg/L)	<0. 0002	<0. 0002	<0. 0002	0/4	0. 03以下
	テトラクロロエチレン	(mg/L)	<0. 0002	<0. 0002	<0. 0002	0/4	0. 01以下
	1, 3－ジクロロプロペン	(mg/L)	<0. 0004	<0. 0004	<0. 0004	0/2	0. 002以下
	チウラム	(mg/L)	<0. 0005	<0. 0005	<0. 0005	0/2	0. 006以下
	シマジン	(mg/L)	<0. 0003	<0. 0003	<0. 0003	0/2	0. 003以下
	チオベンカルブ	(mg/L)	<0. 0003	<0. 0003	<0. 0003	0/2	0. 02以下
	ベンゼン	(mg/L)	<0. 0002	<0. 0002	<0. 0002	0/2	－
	セレン	(mg/L)	<0. 001	<0. 001	<0. 001	0/2	0. 01以下
	亜硝酸性窒素	(mg/L)	<0. 05	<0. 05	<0. 05	*/12	－
	硝酸性窒素	(mg/L)	0. 08	<0. 05	0. 24	*/12	－
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	(mg/L)	0. 14	<0. 10	0. 29	0/12	10以下
特殊項目	フェノール類	(mg/L)	<0. 005	<0. 005	<0. 005	0/2	(0. 5以下)
	銅	(mg/L)	<0. 0005	<0. 0005	<0. 0005	0/2	(0. 3以下)
	溶解性鉄	(mg/L)	0. 09	<0. 02	0. 15	0/2	(1以下)
	溶解性マンガン	(mg/L)	0. 0006	<0. 0005	0. 0006	0/2	(1以下)
	E P N	(mg/L)	<0. 0005	<0. 0005	<0. 0005	0/2	(0. 006以下)
	ニッケル	(mg/L)	<0. 001	<0. 001	<0. 001	*/2	－
その他の項目	アンモニア性窒素	(mg/L)	0. 05	<0. 04	0. 09	*/12	－
	磷酸態磷	(mg/L)	0. 014	0. 006	0. 025	*/12	－
	塩分	(% o)	32. 62	30. 13	34. 24	*/12	－
	陰イオン界面活性剤	(mg/L)	<0. 03	<0. 03	<0. 03	*/6	－
	クロロフィル a	(μ g/L)	2. 8	<0. 5	12	*/12	－
観測項目	透明度	(m)	6. 3	2. 5	12. 0	*/12	－
	気温	(° C)	19. 2	6. 1	31. 9	*/12	－
	水温	(° C)	19. 9	14. 2	27. 8	*/12	－

注1 m/nは基準値等を超過した検体数/調査検体数 (m: *は判定基準なし) です。

注2 75%値は日間平均値の年間全データ (n件) を小さいものから順に並べたときの0.75×n番目のデータ値です。

注3 特殊項目の判定値 (環境基準の欄) は排水基準を定める総理府令に定める値の1/10としています。

注4 EPNの判定値 (環境基準の欄) は環境庁の定めた要監視項目指針値を用いています。

注5 平均値算出の際には、報告下限値以下の値は報告下限値として算出しています。

(3) 河川（市計画による自主測定）

市の自主的な取り組みとして、市内を流れる千ノ川、小出川及び駒寄川の水質汚濁の状況を年6回調査しています。

ア 千ノ川（平成30年度）

千ノ川は環境基準の指定がされないため、合流先である小出川の河川B類型を準用して評価しています。

千ノ川では、上ノ田橋と梅田橋でBODが環境基準を超過しました。

項 目		地点名	上ノ田橋		梅田橋		古相模橋		環境基準
			平均値	最小値 ～ 最大値	平均値	最小値 ～ 最大値	平均値	最小値 ～ 最大値	
観測項目	水 温 (℃)	18.6	11.6 ～ 24.3	19.3	11.1 ～ 25.5	19.3	8.5 ～ 26.5	—	
	透視度 (cm)	46	27 ～ >50	48	43 ～ >50	43	35 ～ >50	—	
生活環境項目	p H	7.6	7.3 ～ 8.0	7.5	7.3 ～ 7.7	7.5	7.3 ～ 7.8	6.5～8.5	
	B O D (mg/l)	3.6	2.1 ～ 5.5	3.2	2.1 ～ 4.6	2.6	0.4 ～ 4.3	3以下	
	C O D (mg/l)	3.6	2.3 ～ 4.6	2.9	0.8 ～ 3.9	3.3	2.6 ～ 4.5	—	
	S S (mg/l)	10	1 ～ 20	10	2 ～ 15	15	3 ～ 29	25以下	
	D O (mg/l)	6.7	4.9 ～ 8.9	7.1	6.2 ～ 8.9	7.4	5.9 ～ 10	5以上	

イ 小出川（平成30年度）

小出川の環境基準は平成30年6月に類型指定が行われ、河川B類型として評価しています。

小出川では、全ての調査地点でのBOD及び下町屋橋でのS Sが環境基準を超過しました。

項目		地点名	大黒橋		寺尾橋		浜園橋		環境基準
			平均値	最小値 ～ 最大値	平均値	最小値 ～ 最大値	平均値	最小値 ～ 最大値	
観測項目	水 温 (℃)		18.6	10.1 ～ 24.2	18.6	6.3 ～ 27.0	17.9	6.1 ～ 25.9	—
	透視度 (cm)		>50	>50 ～ >50	34	12 ～ >50	28	11 ～ 37	—
生活環境項目	p H		7.5	7.2 ～ 8.1	7.3	7.0 ～ 7.6	7.3	7.1 ～ 7.7	6.5～8.5
	B O D (mg/l)		3.2	2.1 ～ 5.0	8.7	2.8 ～ 16	6.6	3.1 ～ 11	3以下
	C O D (mg/l)		3.7	1.6 ～ 4.7	7.2	4.0 ～ 11	6.1	3.4 ～ 9.9	—
	S S (mg/l)		2	1以下 ～ 5	16	4 ～ 29	22	10 ～ 47	25以下
	D O (mg/l)		8.7	7.4 ～ 9.7	7.1	5.5 ～ 9.0	7.0	6.1 ～ 8.2	5以上

項目		地点名	下町屋橋		宮の下橋		環境基準
			平均値	最小値 ～ 最大値	平均値	最小値 ～ 最大値	
観測項目	水 温 (℃)		17.6	5.9 ～ 25.5	18.6	8.6 ～ 25.4	—
	透視度 (cm)		31	18 ～ 43	31	17 ～ 41	—
生活環境項目	p H		7.4	7.1 ～ 7.7	7.4	7.2 ～ 7.6	6.5～8.5
	B O D (mg/l)		6.7	3.6 ～ 10	4.1	2.1 ～ 6.2	3以下
	C O D (mg/l)		6.0	1.6 ～ 9.7	5.1	3.8 ～ 7.3	—
	S S (mg/l)		35	9 ～ 66	23	12 ～ 38	25以下
	D O (mg/l)		6.3	5.5 ～ 8.1	6.7	5.6 ～ 8.8	5以上

注1 「平均値」は調査期間内の各測定値の単純平均です。

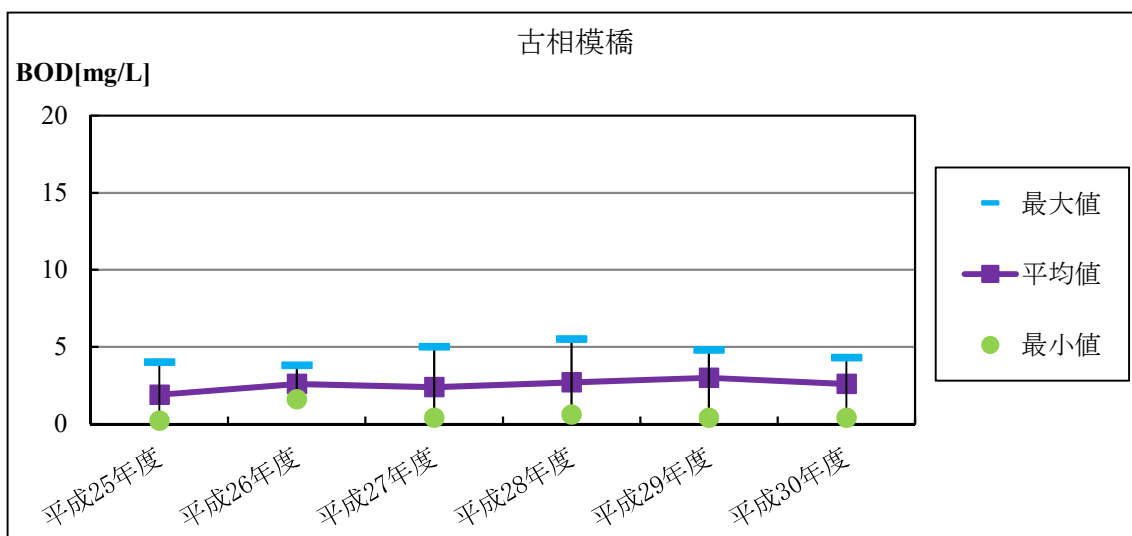
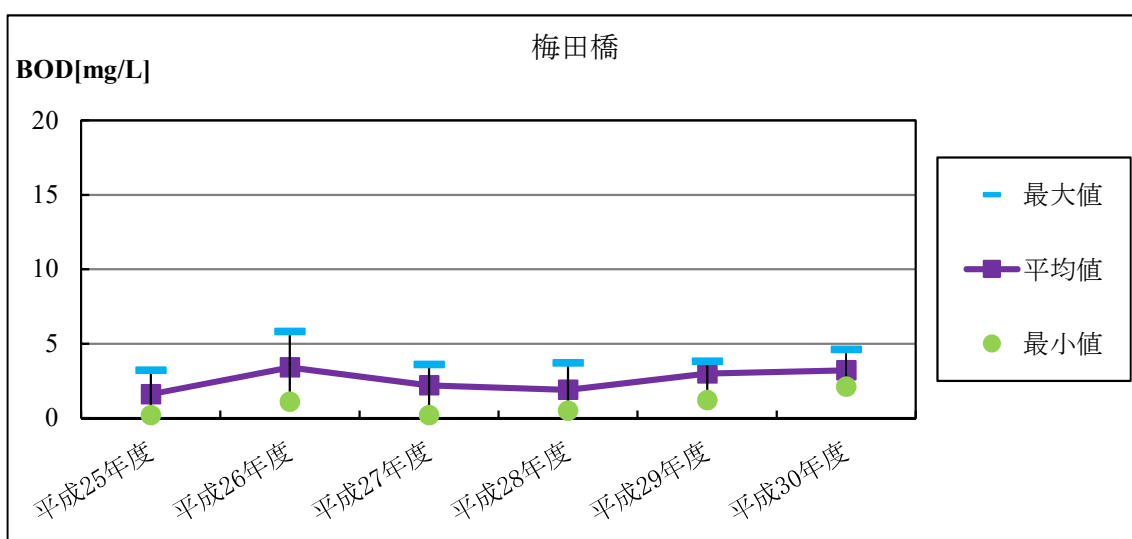
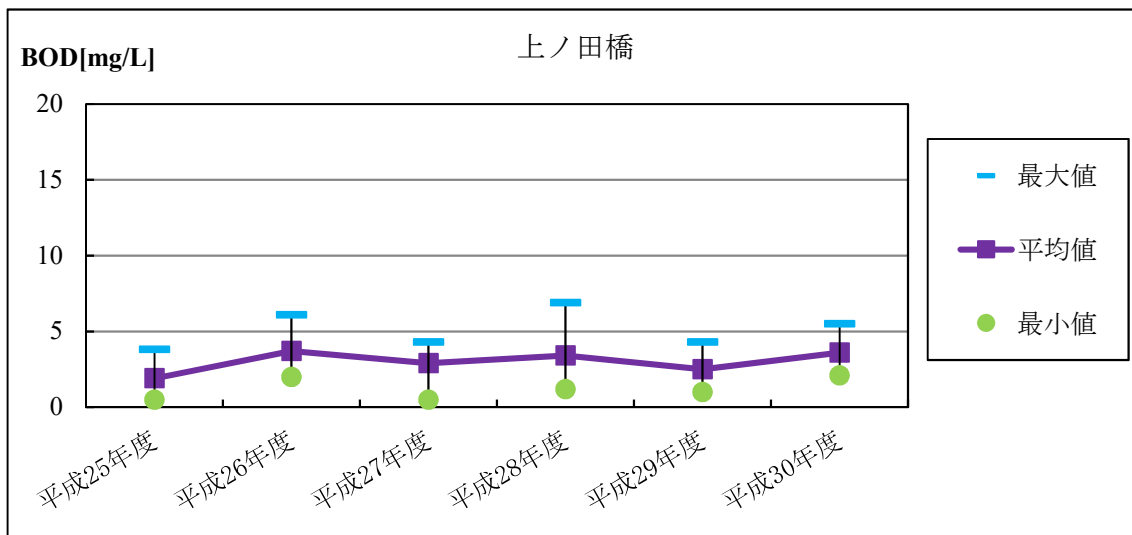


図 千ノ川 BOD経年変化

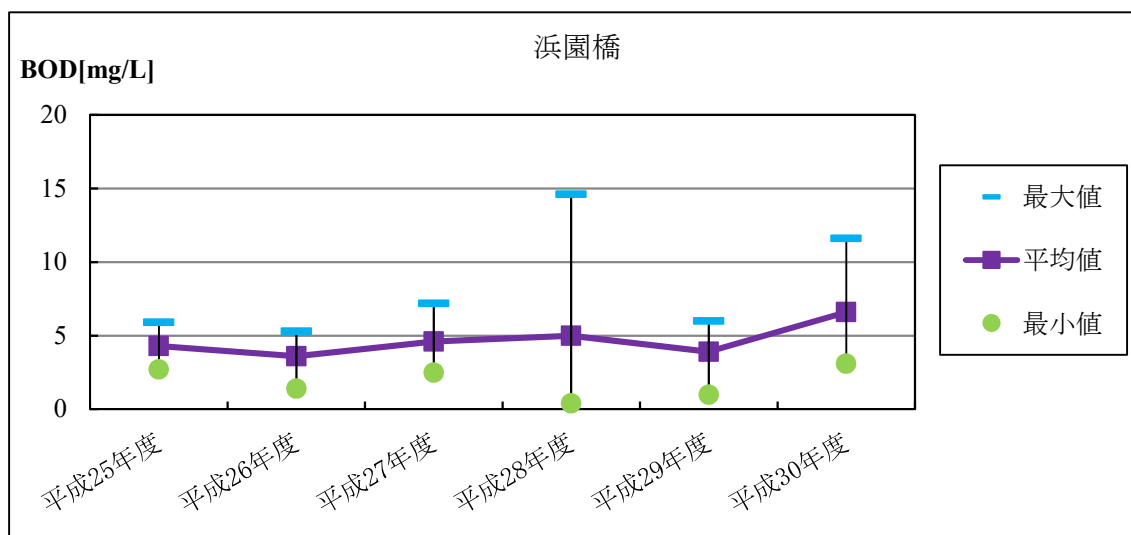
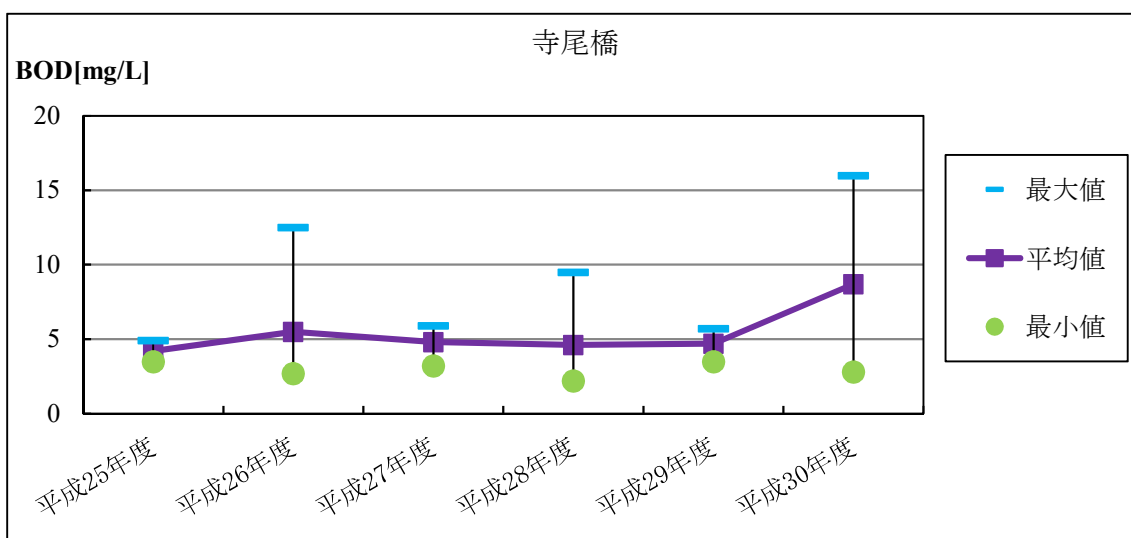
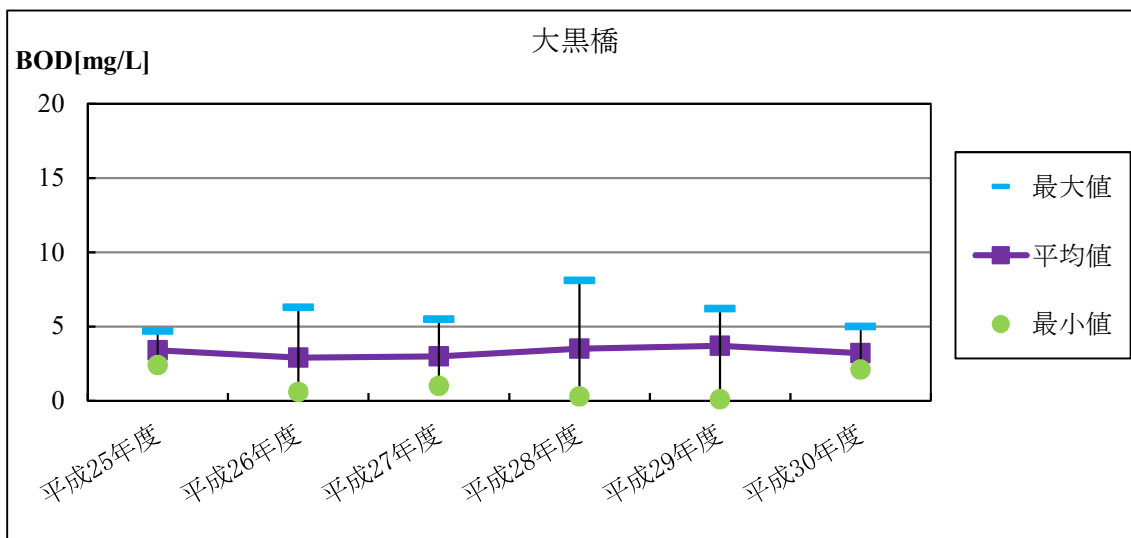


図 小出川 BOD経年変化

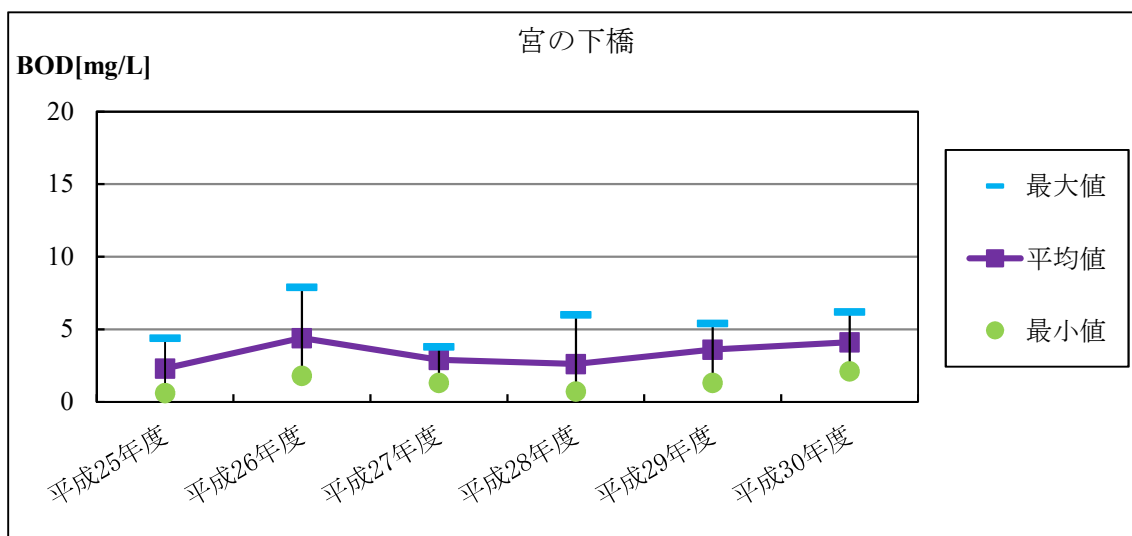
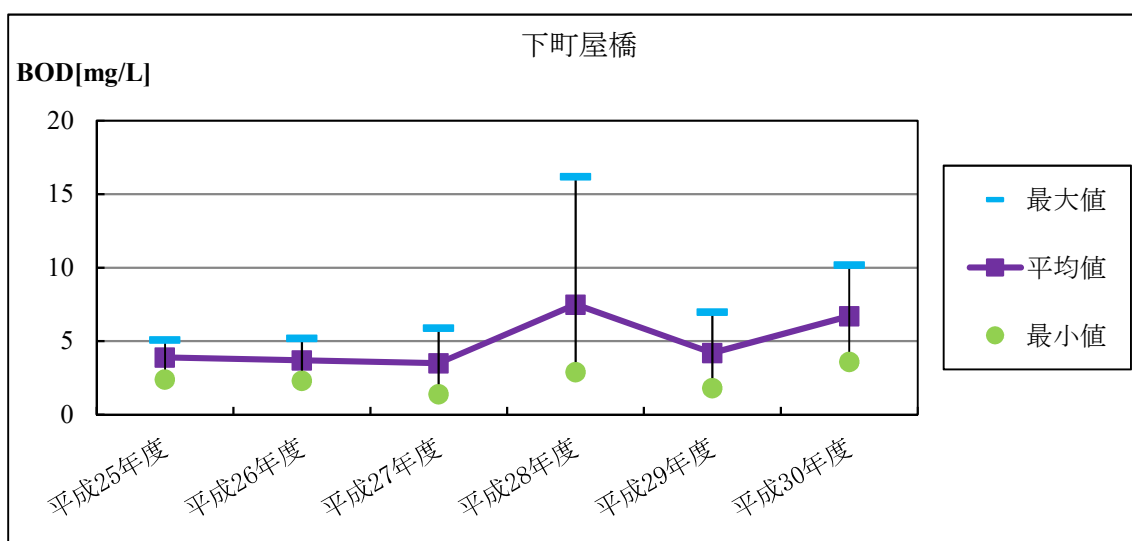


図 小出川 BOD経年変化

ウ 駒寄川（平成30年度）

駒寄川は環境基準の指定がされないため、合流先である小出川の河川B類型を準用して評価しています。

駒寄川では、中通橋でBODが環境基準を超過しました。

項 目		地点名	中通橋		環境基準
			平均値	最小値 ～ 最大値	
観測項目	水 温 (℃)		18.9	7.1 ～ 25.9	—
	透視度 (cm)		45	30 ～ >50	—
生活環境項目	p H		7.4	7.1 ～ 7.6	6.5～8.5
	B O D (mg/l)		4.3	1.4 ～ 7.8	3以下
	C O D (mg/l)		5.7	4.8 ～ 6.7	—
	S S (mg/l)		10	3 ～ 21	25以下
	D O (mg/l)		7.8	6.5 ～ 9.4	5以上

注1 「平均値」は調査期間内の各測定値の単純平均です。

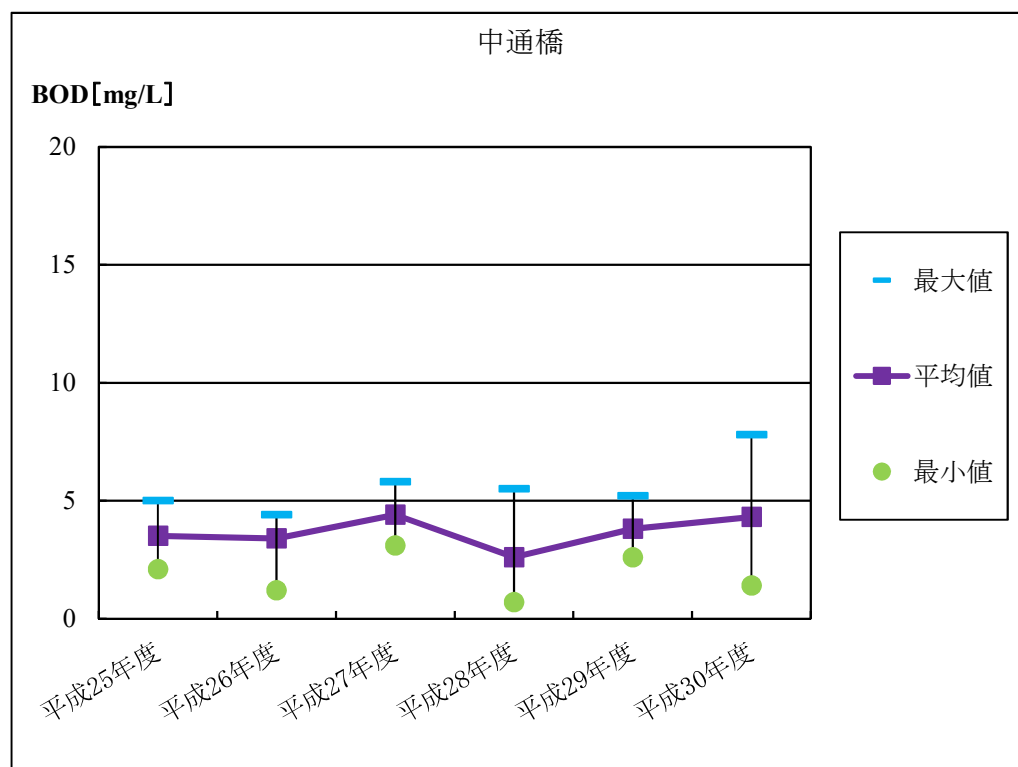


図 駒寄川 BOD経年変化

(4) 水浴場

海水浴場として利用されているサザンビーチちがさきの水質等の状況を国に報告するため、海水浴場の開設前の5月と開設中7月に測定を実施しています。

平成30年度の水質測定の結果、開設前判定は水質AA、開設中判定は水質Bでした。

なお、病原性大腸菌O-157は不検出でした。

調査項目 調査時期	評価項目				判定	参考項目
	ふん便性大腸菌群数	油膜の有無	COD	透明度		O-157
5月 (海水浴場開設前)	不検出	なし	1.5mg/L	1m以上	水質AA	不検出
7月 (海水浴場開設中)	不検出	なし	3.1mg/L	1m以上	水質B	不検出

水浴場水質判定基準

判定については、下記の表に基づいて以下のとおりとする。

- (1) ふん便性大腸菌群数、油膜の有無、COD又は透明度のいずれかの項目が「不適」であるものを、「不適」な水浴場とする。
- (2) 「不適」でない水浴場について、ふん便性大腸菌群数、油膜の有無、COD及び透明度によって、「水質AA」、「水質A」、「水質B」、あるいは「水質C」を判定し、「水質AA」及び「水質A」であるものを「適」、「水質B」及び「水質C」であるものを「可」とする。

- ・各項目の全てが「水質AA」である水浴場を「水質AA」とする。
- ・各項目の全てが「水質A」以上である水浴場を「水質A」とする。
- ・各項目の全てが「水質B」以上である水浴場を「水質B」とする。
- ・これら以外のものを「水質C」とする。

区 分		ふん便性大腸菌群数	油膜の有無	COD	透明度
適	水質AA	不 検 出 (検出下限2個/100mL)	油膜が 認められない	2mg/L以下 (湖沼は3mg/L以下)	全 透 (1m以上)
	水質A	100個/100mL以下	油膜が 認められない	2mg/L以下 (湖沼は3mg/L以下)	全 透 (1m以上)
可	水質B	400個/100mL以下	常時は油膜が 認められない	5mg/L以下	1m未満 ～50cm以上
	水質C	1000個/100mL以下	常時は油膜が 認められない	8mg/L以下	1m未満 ～50cm以上
不適		1000個/100mLを 超えるもの	常時油膜が 認められる	8mg/L超	50cm未満※

注1 判定は、同一水浴場に関して得た測定値の平均による。

注2 「不検出」とは、平均値が検出下限未満のことをいう。

注3 透明度(※の部分)に関しては、砂の巻き上げによる原因は評価の対象外とすることができる。

(4) 地下水（水質汚濁防止法第16条の測定計画に基づく測定）

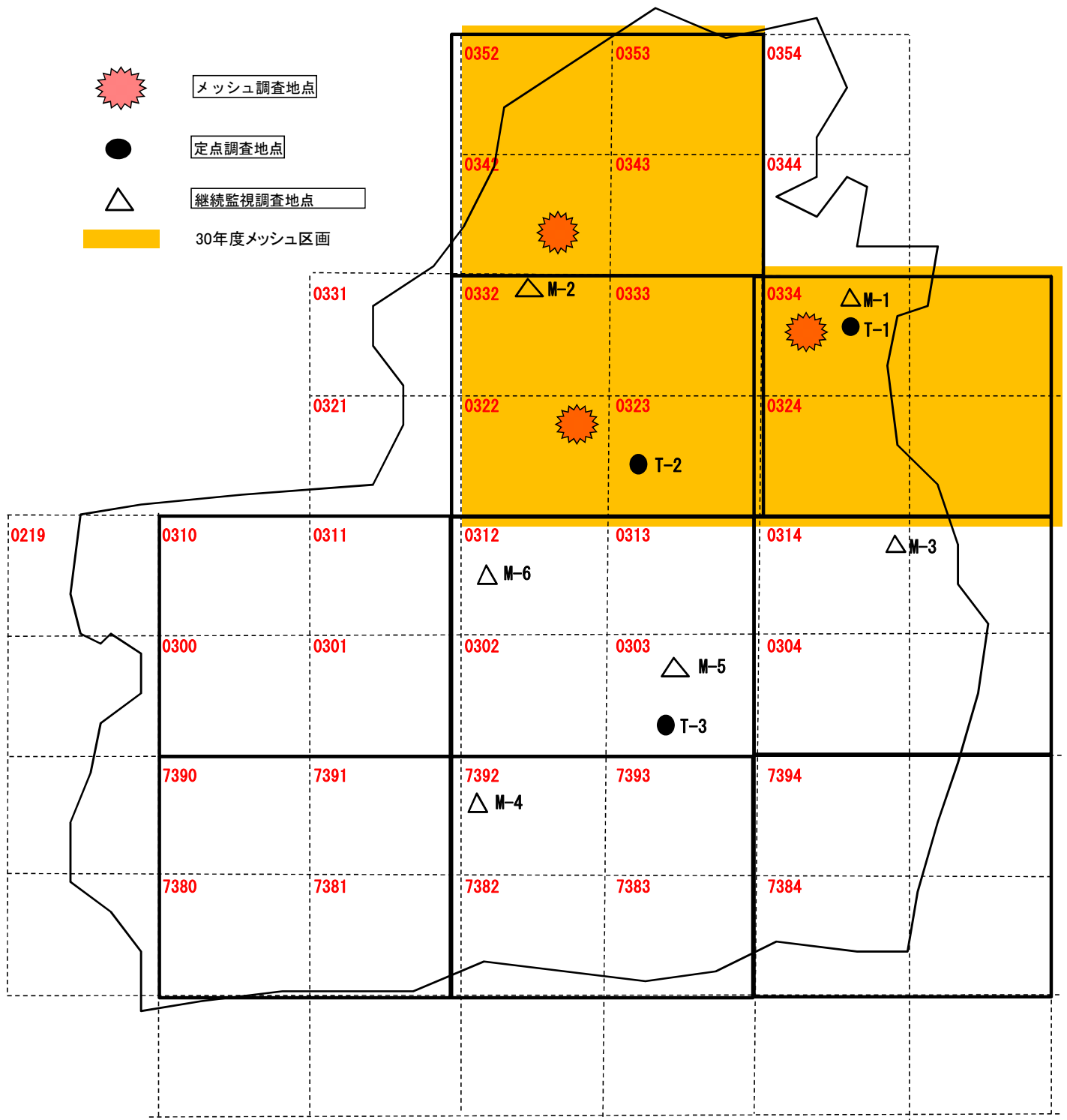
定点調査は全6地点を3地点ずつ隔年で調査しています。また、メッシュ調査は県全域を2kmメッシュに区画分けし、茅ヶ崎市内の9メッシュを4年サイクル（2メッシュを3年、3メッシュを1年）で調査しています。継続監視調査は、過去の地下水水質調査において環境基準を超過した項目があった地点を引き続き調査しており、平成30年度は6地点あります。

平成30年度の結果、定点調査及びメッシュ調査で環境基準の超過はありませんでした。また、継続監視調査では、M-3以外の地点において、過去に環境基準を超過した項目等で環境基準を超過していました。

測定井戸情報

No.	調査種類	調査番号	測定地点	井戸の諸元	
				浅・深井戸	用 途
1	定 点	T-1	茅ヶ崎市堤	浅井戸	生活用水
2	定 点	T-2	茅ヶ崎市甘沼	深井戸	一般飲用
3	定 点	T-3	茅ヶ崎市本村	深井戸	生活用水
4	メッシュ	0342	茅ヶ崎市行谷	浅井戸	生活用水
5	メッシュ	0322	茅ヶ崎市香川	浅井戸	生活用水
6	メッシュ	0334	茅ヶ崎市堤	浅井戸	生活用水
7	継続監視調査	M-1	茅ヶ崎市堤	浅井戸	生活用水
8	継続監視調査	M-2	茅ヶ崎市下寺尾	浅井戸	生活用水
9	継続監視調査	M-3	茅ヶ崎市赤羽根	浅井戸	生活用水
10	継続監視調査	M-4	茅ヶ崎市十間坂	浅井戸	生活用水
11	継続監視調査	M-5	茅ヶ崎市本村	浅井戸	生活用水
12	継続監視調査	M-6	茅ヶ崎市円蔵	浅井戸	生活用水

図 地下水調査地点（平成30年度）



ア 地下水水質常時監視調査結果（定点調査及び継続監視調査・平成３０年度）

定点調査では、環境基準の超過はありません。

継続監視調査では、Ｍ－１、Ｍ－２、Ｍ－３、Ｍ－６は、過去に硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の環境基準超過があったため、同物質を引き続き測定した結果、Ｍ－３以外の地点で同様に環境基準の超過が確認されました。また、Ｍ－４、Ｍ－５は、過去にトリクロロエチレンの環境基準超過があったため、同物質及び分解生成物について測定した結果、Ｍ－４ではトリクロロエチレン、Ｍ－５ではトリクロロエチレンと1,2-ジクロロエチレンが環境基準を超過しました。

単位(mg/L)

調査項目	調査区分	定点調査			継続監視調査					
	番号	Ｔ－１	Ｔ－２	Ｔ－３	Ｍ－１	Ｍ－２	Ｍ－３	Ｍ－４	Ｍ－５	Ｍ－６
	調査機関名	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市
	調査地区名	堤	甘沼	本村	堤	下寺尾	赤羽根	十間坂	本村	円蔵
	深度区分	浅井戸	深井戸	深井戸	浅井戸	浅井戸	浅井戸	浅井戸	浅井戸	浅井戸
	用途区分	生活用水	一般飲用	生活用水	生活用水	生活用水	生活用水	生活用水	生活用水	生活用水
	測定年月	平成30年10月26日								
環境基準項目	環境基準									
	カドミウム	0.003以下	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	－	－	－	－	－
	全シアン	検出されないこと	0.1未満	0.1未満	0.1未満	－	－	－	－	－
	鉛	0.01以下	0.005未満	0.005未満	0.005未満	－	－	－	－	－
	六価クロム	0.05以下	0.02未満	0.02未満	0.02未満	－	－	－	－	－
	砒素	0.01以下	0.005未満	0.005未満	0.005未満	－	－	－	－	－
	総水銀	0.0005以下	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	－	－	－	－	－
	PCB	検出されないこと	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	－	－	－	－	－
	ジクロロメタン	0.02以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満	－	－	－	－	－
	四塩化炭素	0.002以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満	－	－	－	－	－
	クロロエチレン	0.002以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満	－	－	－	－	－
	1,2-ジクロロエタン	0.004以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満	－	－	－	－	－
	1,1-ジクロロエチレン	0.1以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満	－	－	0.0002未満	0.0078	－
	1,2-ジクロロエチレン	0.04以下	0.0004未満	0.0004未満	0.0004未満	－	－	0.014	0.088	－
	シス－1,2-ジクロロエチレン	－	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満	－	－	0.010	0.088	－
	トランス－1,2-ジクロロエチレン	－	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満	－	－	0.0041	0.0006	－
	1,1,1-トリクロロエタン	1以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満	－	－	－	－	－
	1,1,2-トリクロロエタン	0.006以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満	－	－	－	－	－
	トリクロロエチレン	0.01以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満	－	－	0.055	0.074	－
	テトラクロロエチレン	0.01以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満	－	－	－	－	－
	1,3-ジクロロプロペン	0.002以下	0.0004未満	0.0004未満	0.0004未満	－	－	－	－	－
	チウラム	0.006以下	0.0006未満	0.0006未満	0.0006未満	－	－	－	－	－
	シマジン	0.003以下	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	－	－	－	－	－
	チオベンカルブ	0.02以下	0.002未満	0.002未満	0.002未満	－	－	－	－	－
	ベンゼン	0.01以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満	－	－	－	－	－
	セレン	0.01以下	0.002未満	0.002未満	0.002未満	－	－	－	－	－
	硝酸性窒素	－	5.4	2.1	0.05未満	17	14	8.6	－	42
	亜硝酸性窒素	－	0.05未満	0.05未満	0.05未満	0.05未満	0.05未満	0.05未満	－	0.05未満
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10以下	5.4	2.1	0.1未満	17	14	8.6	－	42
	ふっ素	0.8以下	0.08未満	0.08未満	0.08未満	－	－	－	－	－
	ほう素	1以下	0.02未満	0.02未満	0.02未満	－	－	－	－	－
	1,4-ジオキサン	0.05以下	0.005未満	0.005未満	0.005未満	－	－	－	－	－
一般項目	電気伝導率(mS/m)	－	34	33	39	32	32	66	24	69
	pH	※5.8～8.6	6.7	7.5	8.3	6.5	6.6	6.6	8.1	7.0
	水温(℃)	－	16.4	16.4	18.5	17.8	18.2	18.0	20.2	19.5
	臭気	－	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭
	外観	－	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明

注１ p Hについては水道法第４条に基づく水質基準値で単位はありません。

注２ 太字部分は、環境基準値の超過を示しています。

イ 地下水水質常時監視調査結果（メッシュ調査・平成30年度）

メッシュ調査では、環境基準の超過はありません。

単位 (mg/L)

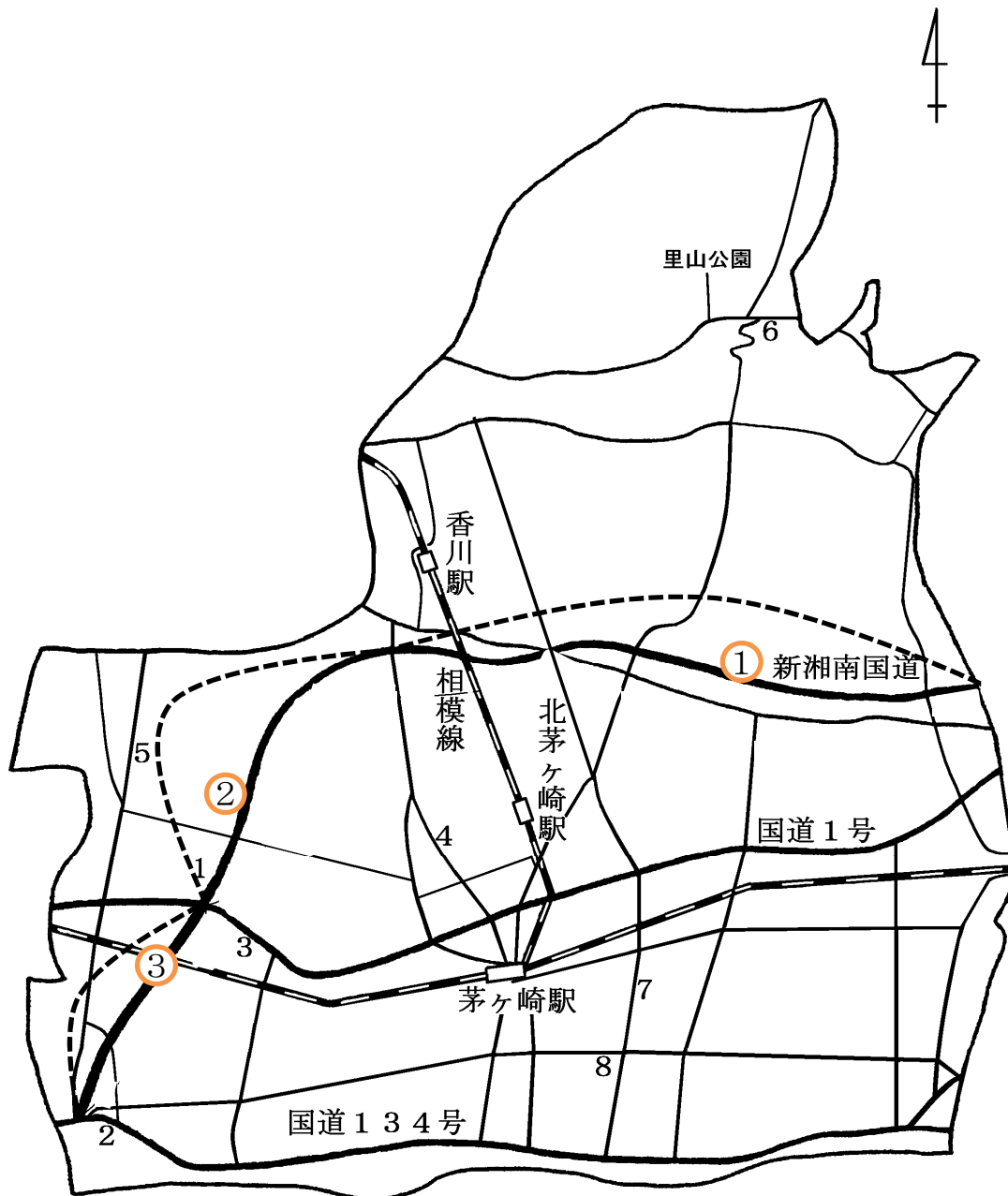
調 査 項 目		調査区分	メッシュ調査		
		番号	0342	0322	0334
		調査機関名	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市
		調査地区名	行谷	香川	堤
		深度区分	浅井戸	浅井戸	浅井戸
		用途区分	生活用水	生活用水	生活用水
		測定年月	平成30年10月26日		
		環境基準			
環境基準項目	カドミウム	0.003以下	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満
	全シアン	検出されないこと	0.1未満	0.1未満	0.1未満
	鉛	0.01以下	0.005未満	0.005未満	0.005未満
	六価クロム	0.05以下	0.02未満	0.02未満	0.02未満
	砒素	0.01以下	0.005未満	0.005未満	0.005未満
	総水銀	0.0005以下	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満
	PCB	検出されないこと	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満
	ジクロロメタン	0.02以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満
	四塩化炭素	0.002以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満
	クロロエチレン	0.002以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満
	1,2-ジクロロエタン	0.004以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満
	1,1-ジクロロエチレン	0.1以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満
	1,2-ジクロロエチレン	0.04以下	0.0004未満	0.0004未満	0.0004未満
	シス-1,2-ジクロロエチレン	-	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満
	トランス-1,2-ジクロロエチレン	-	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満
	1,1,1-トリクロロエタン	1以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満
	1,1,2-トリクロロエタン	0.006以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満
	トリクロロエチレン	0.01以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満
	テトラクロロエチレン	0.01以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満
	1,3-ジクロロプロペン	0.002以下	0.0004未満	0.0004未満	0.0004未満
	チウラム	0.006以下	0.0006未満	0.0006未満	0.0006未満
	シマジン	0.003以下	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満
	チオベンカルブ	0.02以下	0.002未満	0.002未満	0.002未満
	ベンゼン	0.01以下	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満
	セレン	0.01以下	0.002未満	0.002未満	0.002未満
	硝酸性窒素	-	0.36	2.5	1.8
	亜硝酸性窒素	-	0.05未満	0.05未満	0.05未満
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10以下	0.41	2.5	1.8
	ふっ素	0.8以下	0.08未満	0.08未満	0.08未満
	ほう素	1以下	0.02未満	0.02未満	0.02未満
	1,4-ジオキサン	0.05以下	0.005未満	0.005未満	0.005未満
一般項目	電気伝導度 (mS/m)	-	23	15	11
	水素イオン濃度	※5.8~8.6	7.1	7.8	7.3
	水温 (℃)	-	19.0	19.5	16.5
	臭気	-	無臭	無臭	無臭
	外観	-	無色透明	無色透明	無色透明

注1 p Hについては水道法第4条に基づく水質基準値で単位はありません。

4－3 騒 音 ・ 振 動

- (1) 自動車交通騒音常時監視
- (2) 道路端測定（市自主調査）
- (3) 一般環境騒音測定
- (4) 航空機騒音

自動車交通騒音等測定地点図



(1) 自動車騒音常時監視

- ① 国道1号(新湘南B. P) ……………赤羽根528付近
- ② 国道1号(新湘南B. P) ……………今宿98-8付近
- ③ 国道1号(新湘南B. P) ……………中島1337-1付近

(2) 道路端測定(市自主調査)

- 1 新湘南国道……………市営今宿住宅1号棟(今宿243-3)
- 2 国道134号……………柳島記念館(柳島1900)
- 3 国道1号……………下町屋自治会館前(下町屋1-6-19)
- 4 県道45号(丸子中山茅ヶ崎線) ……茅ヶ崎市消防署前(矢畑1280-3)
- 5 県道46号(相模原茅ヶ崎線) ……萩園一般事業所(萩園1305-2)
- 6 県道47号(藤沢平塚線) ……………皆楽荘前(堤1928)
- 7 市道東海岸寒川線……………東海岸北五丁目(東海岸北5-1-33)
- 8 市道柳島小和田線……………東海岸駐在所前(東海岸南2-11-1)

(1) 自動車騒音常時監視（騒音規制法第18条に基づく常時監視・平成30年度）

国道1号（新湘南B. P）の騒音の状況は、昼夜共に環境基準及び要請限度を達成していました。また、道路沿いの住居等で評価する面的評価では、区間内の67.4～86.0%で昼夜の環境基準を達成していましたが、残りは昼夜ともに環境基準を超過、若しくは昼のみ又は夜のみ環境基準を超過していました。

測定項目 測定場所	区間 延長 (Km)	等価騒音レベル (dB)				時間交通量 (台/時)		面的評価					測定日
		道路端		背後地		昼 7～9時	夜 22～0時	戸数	環境基準達成率 (%)			昼夜とも に基準値 超過	
		昼 6～22時	夜 22～6時	昼 6～22時	夜 22～6時				昼夜両方 24時間	昼のみ 6～22時	夜のみ 22～6時		
①国道1号(新湘南B. P) 測定場所: 赤羽根528付近 第1種住居地域 区間: 赤羽根2692～円蔵2615-4	4.3	67	62	54	47	1508	349	区間内 2386 戸	86.0% 2052 戸	0.2% 5 戸	0.9% 22 戸	12.9% 307 戸	平成30年 10月22日 ～ 10月23日
								近接空間 1043 戸	93.8% 978 戸	0.0% 0 戸	0.5% 5 戸	5.8% 60 戸	
環 境 基 準 要 請 限 度		70 75	65 70	65 60				非近接空間 1343 戸	80.0% 1074 戸	0.4% 5 戸	1.3% 17 戸	18.4% 247 戸	
②国道1号(新湘南B. P) 測定場所: 今宿98-8付近 第1種住居地域 区間: 円蔵2615-4～今宿1323	2.5	65	59	58	48	906	258	区間内 559 戸	67.4% 377 戸	0.0% 0 戸	5.7% 32 戸	26.8% 150 戸	平成30年 10月22日 ～ 10月23日
								近接空間 312 戸	60.3% 188 戸	0.0% 0 戸	5.8% 18 戸	34.0% 106 戸	
環 境 基 準 要 請 限 度		70 75	65 70	65 60				非近接空間 247 戸	76.5% 189 戸	0.0% 0 戸	5.7% 14 戸	17.8% 44 戸	
③国道1号(新湘南B. P) 測定場所: 中島1337-1付近 準工業地域 区間: 今宿1323～柳島1900	1.7	64	59	51	48	699	148	区間内 136 戸	83.8% 114 戸	0.0% 0 戸	5.9% 8 戸	10.3% 14 戸	平成30年 10月22日 ～ 10月23日
								近接空間 44 戸	72.7% 32 戸	0.0% 0 戸	9.1% 4 戸	18.2% 8 戸	
環 境 基 準 要 請 限 度		70 75	65 70	65 60				非近接空間 92 戸	89.1% 82 戸	0.0% 0 戸	4.3% 4 戸	6.5% 6 戸	

- 注1 道路端 道路の敷地境界線上での測定値です。
- 注2 背後地 道路端から50mの範囲内で、道路に直接面していない2列目以降の住居等の位置する場所での測定値です。
- 注3 面的評価 道路端から50mの範囲内の住居の環境基準達成状況の評価です。
- 注4 環境基準 環境基本法で「人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準」であると定められています。これは、行政上の目標と定められているもので、規制基準とは性格が異なるものです。現在は大気、水質、土壌汚染、騒音に関する環境基準が定められています。
- 注5 要請限度 騒音規制法第17条第1項及び振動規制法第16条第1項に基づき、総理府令定められた道路交通騒音・振動の限度とされる値です。この値を超え道路周辺の生活環境が著しく損なわれている場合は、公安委員会に対しての要請や道路管理者に意見をすることができます。
- 注6 区間内 区間内の道路端から50mの範囲内の住居数を記載しています。
- 注7 近接空間 2車線以下の道路は、道路端から15mまでの範囲内の住居数を記載しています。
2車線を超える道路は、道路端から20mまでの範囲内の住居数を記載しています。
- 注8 非近接空間 2車線以下の道路は、道路端から15mを超え50mまでの範囲内の住居数を記載しています。
2車線を超える道路は、道路端から20mを超え50mまでの範囲内の住居数を記載しています。

(2) 道路端測定（市自主調査・平成30年度）

市内の主要8路線の騒音の状況は、国道134号線を含む3路線では昼夜ともに環境基準を超過していました。また、国道1号線を含む2路線では、夜間のみ環境基準を超過していた。その他の路線では、昼夜ともに環境基準を達成していました。

なお、騒音及び振動の要請限度を超過した路線はありませんでした。

測定地点		騒音 (Leq)						(単位：d B) 振動※ 2 (L ₁₀)				用途地域	測定日
		測定結果		環境基準		要請限度		測定結果		要請限度			
		昼 6～2 2 時	夜 2 2 時～6 時	昼 6～2 2 時	夜 2 2 時～6 時	昼 6～2 2 時	夜 2 2 時～6 時	昼 8～1 9 時	夜 1 9～8 時	昼 8～1 9 時	夜 1 9～8 時		
1	新湘南国道 今宿市営住宅 1 号棟 今宿 2 4 3－3	<u>60</u>	<u>56</u>	65	60	75	70	<u>33</u>	<u>29</u>	65	60	第 1 種住居	11月15日 から 11月16日
2	国道 1 3 4 号 (※ 1) 柳島記念館 柳島 1 9 0 0	<u>73</u>	<u>70</u>	70	65	75	70	<u>42</u>	<u>41</u>	65	60	調整	11月14日 から 11月15日
3	国道 1 号 (※ 1) 下町屋自治会館 下町屋 1－6－1 9	<u>68</u>	<u>66</u>	70	65	75	70	<u>39</u>	<u>37</u>	65	60	第 2 種住居	11月26日 から 11月27日
4	県道 4 5 号 (※ 1) 茅ヶ崎市消防署 矢畑 1 2 8 0－3	<u>70</u>	<u>66</u>	70	65	75	70	<u>39</u>	<u>36</u>	70	65	工業	11月27日 から 11月28日
5	県道 4 6 号 (※ 1) 事業所駐車場 萩園 1 3 0 5－2	<u>68</u>	<u>65</u>	70	65	75	70	<u>46</u>	<u>39</u>	70	65	準工業	11月21日 から 11月22日
6	県道 4 7 号 (※ 1) 皆楽荘 堤 1 9 2 8	<u>69</u>	<u>65</u>	70	65	75	70	<u>46</u>	<u>40</u>	65	60	調整	11月20日 から 11月21日
7	市道東海岸寒川線 一般住宅駐車場 東海岸北 5－1－3 3	<u>67</u>	<u>63</u>	65	60	75	70	<u>37</u>	<u>35</u>	65	60	第 1 種住居	11月29日 から 11月30日
8	市道柳島小和田線 東海岸駐在所 東海岸南 2－1 1－1	<u>66</u>	<u>61</u>	65	60	75	70	<u>38</u>	<u>37</u>	65	60	第 1 種住居	12月13日 から 12月14日

：環境基準超過 ：要請限度超過

注 ※1は幹線交通を担う道路に近接する区域、空間です。（2車線以下の車線を有する道路の場合は、道路の敷地の境界線から15メートル、2車線を超える車線を有する道路の場合は、道路の敷地の境界線から20メートルまでの範囲。）

※2は、振動には環境基準の設定がありません。

(3) 一般環境騒音測定（平成30年度）

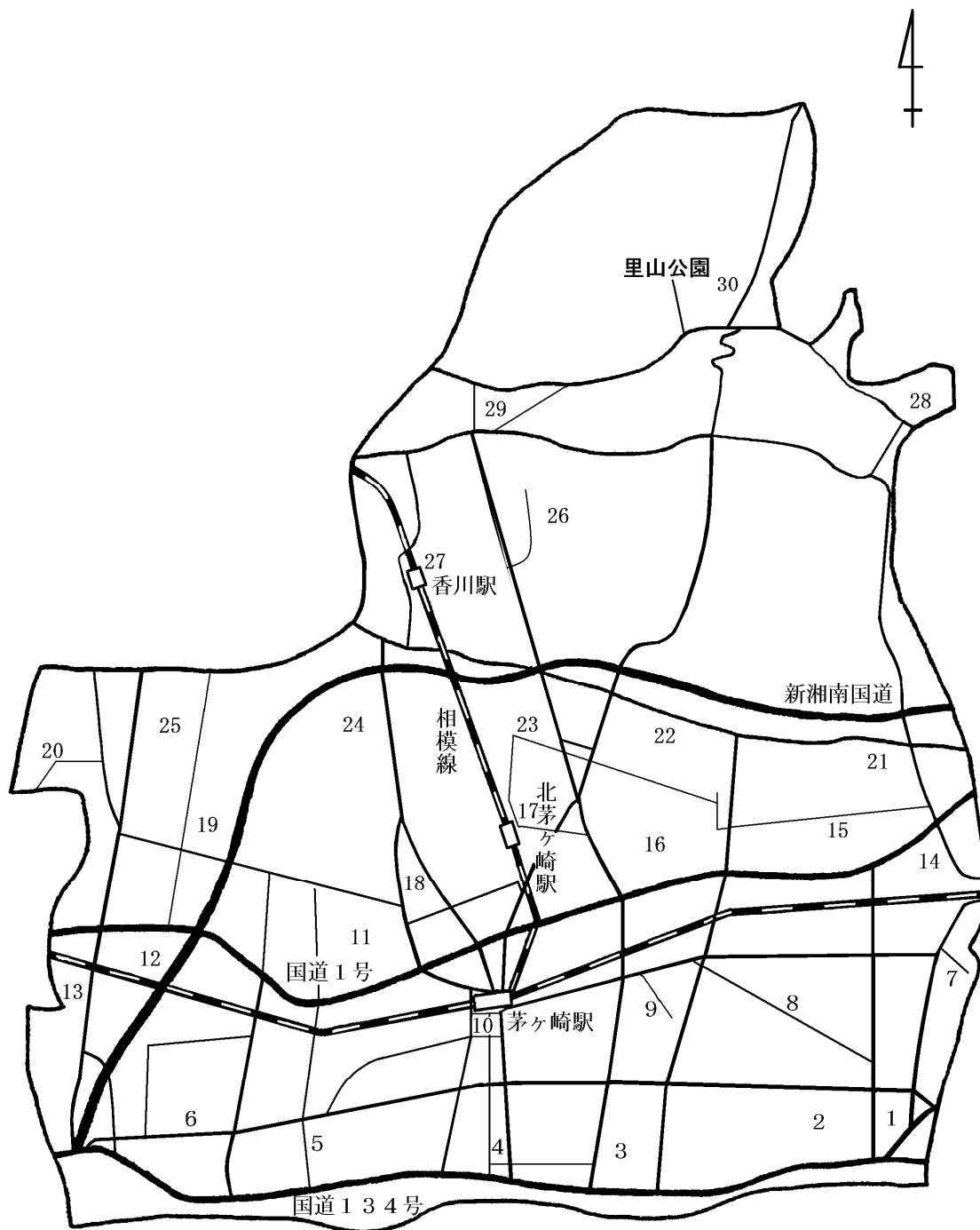
茅ヶ崎市では、平成24年度に環境基本法に基づく騒音に係る環境基準の類型指定を行い、市内の環境基準の順守状況を自主的な測定で確認してきましたが、環境基準を継続的にほぼ全ての地点で達成しているため、平成30年度から測定方法を見直し、測定地点全30地点を4年間に分けて昼間調査することとしました。

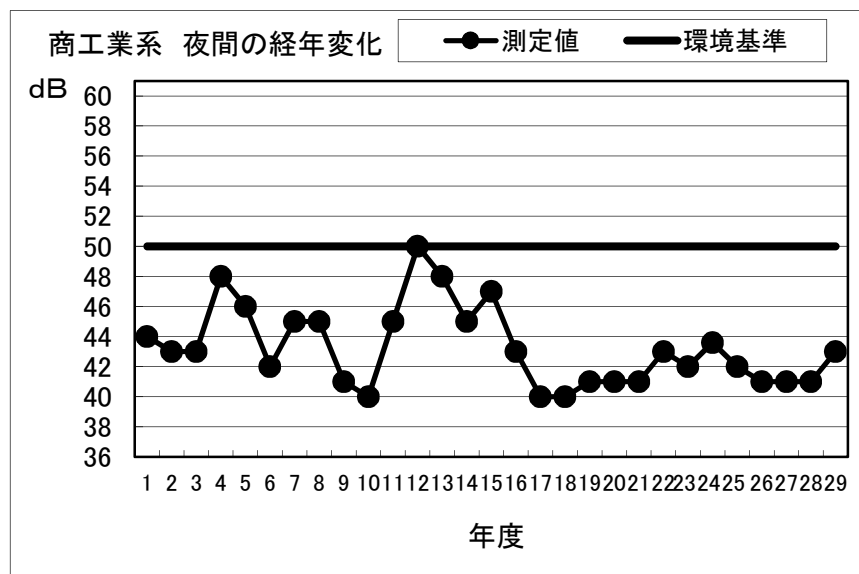
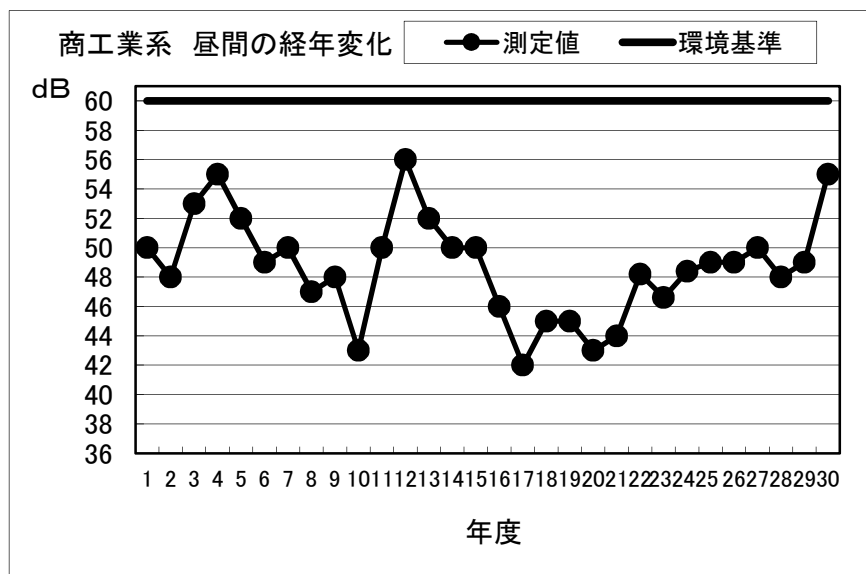
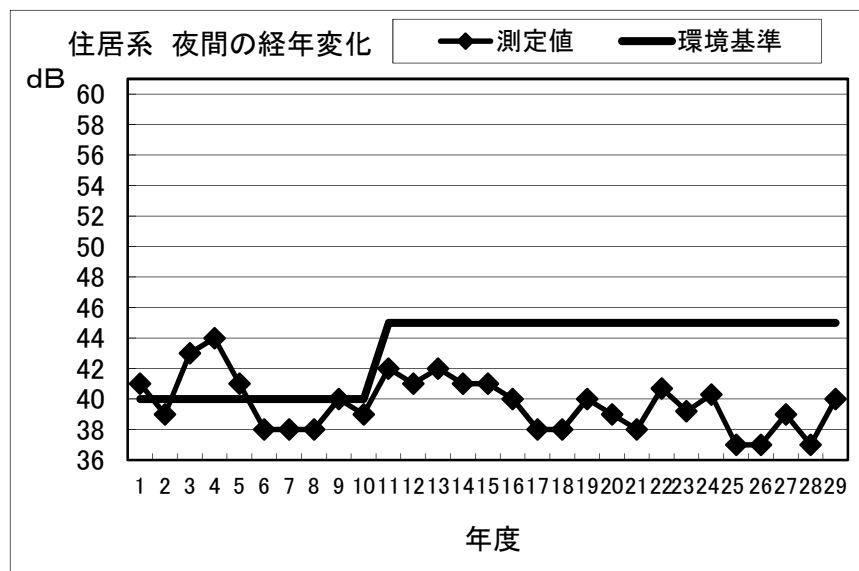
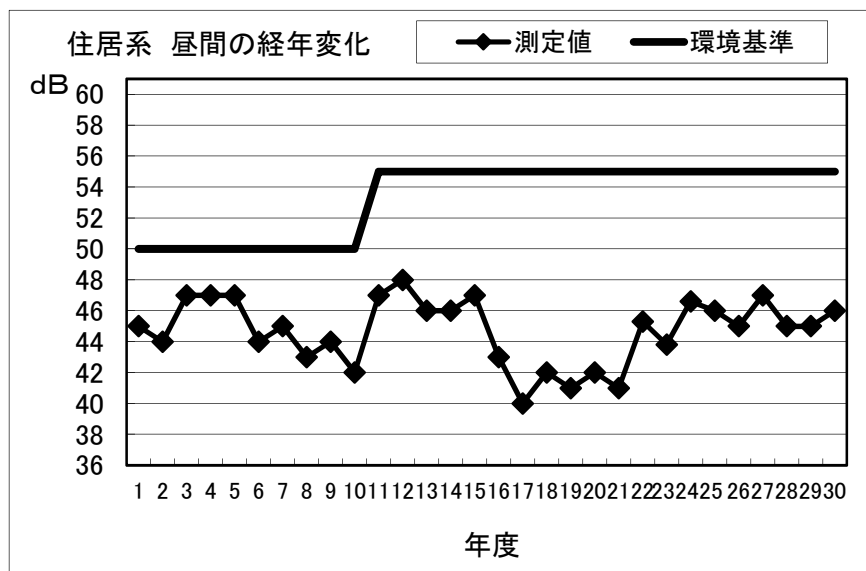
平成30年度は8地点を調査し、全ての地点で環境基準を達成していました。

(dB)

No.	測定場所	用途地域	等価騒音レベル	
			昼間 6時～22時	
			測定値	環境基準
1	緑が浜7-57	第1種住居	43	55
2	浜須賀7-46	第1種低層住居専用	47	55
3	東海岸南5-3-47	第1種低層住居専用	46	55
4	東海岸南1-15-24	第1種低層住居専用	47	55
5	南湖4-10-10	第1種低層住居専用	43	55
6	浜見平8-2	第1種中高層住居専用	50	55
7	浜竹4-1-21	第1種低層住居専用	-	55
8	美住町14-25	第1種低層住居専用	-	55
9	東海岸北4-12-28	第1種低層住居専用	-	55
10	共恵1-4-25	商業	-	60
11	浜之郷1177-19	第1種住居	-	55
12	中島1373-3	準工業	55	60
13	中島874-14	第1種中高層住居専用	46	55
14	本宿町6-48	準工業	-	60
15	小和田1-8-47	第1種中高層住居専用	-	55
16	本村5-19-40	第1種中高層住居専用	-	55
17	茅ヶ崎521-3	第1種中高層住居専用	-	55
18	矢畑747	第1種住居	-	55
19	萩園2114-82	第1種中高層住居専用	-	55
20	萩園3184-9	工業	-	60
21	菱沼1-22-3	第1種中高層住居専用	-	55
22	高田2-11-30	第1種低層住居専用	-	55
23	鶴が台5-4	第1種中高層住居専用	-	55
24	西久保726-2	第1種中高層住居専用	-	55
25	萩園1469-5	第1種中高層住居専用	-	55
26	松風台12-22	第1種低層住居専用	-	55
27	香川6-22-26	近隣商業	-	60
28	堤41-6	第1種低層住居専用	-	55
29	下寺尾1574	調整	-	55
30	芹沢902-21	調整	-	55
平均値			47	

環境騒音測定地点図





注1 測定値及び環境基準値は、平成10年度まで中央値、平成11年度から等価騒音レベルとなっています。

注2 夜間の測定については、平成30年度より測定を休止しています。

(4) 航空機騒音（平成30年度）

茅ヶ崎市は、厚木飛行場の南西に位置し、米海軍の飛行機の飛行コースの沿線として航空機による影響を受けているため、市内3ヶ所で航空機騒音自動観測装置を設置し測定しました。

全ての地点において環境基準を達成しました。

測定地点	期間内の値	環境基準	測定期間
	Lden[dB]		
茅ヶ崎市斎場	37.1	57	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日
赤羽根中学校	40.9	57	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日
松浪中学校	38.1	57	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日

注1 平成25年4月1日から環境基準はWECPNL値からLdenに変更となりました。環境基準は57dB以下です。Ldenとは時間帯補正等価騒音レベル（昼間、夕方、夜間の時間帯別に重みを付けて求めた1日の等価騒音レベル）のことを指します。

注2 期間内の値とは、測定期間のLdenのパワー平均値です。



図 航空機騒音測定地点

4－4 地 盤 沈 下

市では地盤沈下防止のため主に次の事業を実施しています。

○地下水採取量調査 採取量及び地下水位測定結果報告徴収・適正利用指導

○公共水準測量 市内46.25km

○隔年実施のため、平成30年度調査は実施しておりません。

環境に関する用語の解説

環境に関する用語の解説

〔あ行〕

【アルキル水銀／ $R-Hg$ 】

水銀を含む有機化合物の総称を有機水銀化合物という。そのうち水銀がメチル基（ CH_3 ）エチル基（ C_2H_5 ）等のアルキル基と結びついた物質の総称をアルキル水銀という。体内に吸収されやすく、臓器、特に脳に蓄積し知覚障害、運動失調、視野狭窄といったいわゆる水俣病の症状を呈する。また生物による濃縮率が高く、魚介類などに多く蓄積されやすい。

【硫黄酸化物／ SO_x 】

石油や石炭の燃焼によって発生し、主として二酸化硫黄（ SO_2 ）と無水硫酸（ SO_3 ）をいう。主な発生源は、重油ボイラーやごみ焼却場、ディーゼルエンジンなどである。かつてはぜんそくの原因物質として大気汚染の主役であったが、総量規制や脱硫技術の進歩により大幅に改善されてきた。

【一酸化炭素／ CO 】

炭素化合物が不完全燃焼した時に発生する無色無臭の有害ガスで、体内に吸収されると血液中のヘモグロビンと結合し、中枢神経をマヒさせたり、貧血症起こしたりする。主な発生源は自動車排ガスである。

【一酸化窒素／ NO 】

⇒窒素酸化物／ NO_x

【1, 1, 1 - トリクロロエタン／ $C_2H_3Cl_3$ 】

⇒有機塩素系化合物

【1, 4 - ジオキサン】

常温で無色透明の液体で、揮発性物質である。水にも油にも溶けやすい性質から、広く溶剤として使われており、有機化合物を製造する際の反応溶剤として使われるほか、トランジスター、合成皮革や塗料などの溶剤として使われている。人体への影響は、咳、頭痛、意識喪失などがある。

【 SS ／浮遊物質量】(Suspended Solids)

地表から流出した粘土や有機物、プランクトン、工場排水などに起因する金属類など水中に浮遊している不溶性、2mm径以下の物質で、河床などに沈積して魚介類に影響を及ぼしたり、光の透過が妨げられて植物の光合成に影響することがある。

【 L_{den} ／エルデン】(時間帯補正等価騒音レベル)

昼間、夕方、夜間の時間帯別に重みを付けて求めた1日の等価騒音レベル。

航空機騒音については、航空機騒音に係る環境基準の一部を改正する告示（平成19年12月17日環境省告示第114号）が平成19年12月17日に公布され、平成25年4月1日に施行。

これにより、平成25年4月1日以降は、航空機騒音の評価指針が最大騒音レベルと航空機数に基づく評価である『 WEC_{PNL} 』から、時間帯補正等価騒音レベルである『 L_{den} 』に改正されます。

環境基準は、57dB以下。

【 $O-157$ 】

一部の大腸菌には人間に対し強い毒素をもつものが知られている。このように、人間の腸管内に感染して下痢症などを引き起こす大腸菌を「病原性大腸菌」と呼んでいる。

$O-157$ は病原性大腸菌の1種で、出血性大腸炎に続いて溶血性尿毒症を引き起こすことが知られている。なお、 $O-157$ の名称は菌の血清型による分類からきており、 O 型抗原で157番目に確認されたものであることを示している。

【オゾン層破壊】

オゾン層には有害な紫外線を吸収し、生物への悪影響を抑える働きがある。しかし、近年空調機の冷媒や工業用の洗浄剤などとして使われたフロンが、大気中に放出されオゾン層が破壊されることによるオゾンホール現象が観測されている。オゾン層が破壊されると地上に達する有害な紫外線の量が増え、皮膚ガンの増加や生態系への悪影響が懸念される。

【温室効果】

地球は太陽からの日射を受けて暖まる一方、その熱を宇宙へ逃がしているため、地球の気温はほぼ一定に保たれている。しかし、二酸化炭素などの温室効果ガスが大気中に増加してくると、地表から放出される熱はガスに吸収されるため、その一部は地表に戻されて大気の温度が上昇します。この現象が温室における温度の上昇と似ていることから、「温室効果」といわれている。

温室効果ガスとは、二酸化炭素、オゾン、メタン、亜酸化窒素、フロンなどの物質を指します。中でも、二酸化炭素の影響が約5割強を占めており、二酸化炭素の削減が地球温暖化防止の重要課題と課題となっています。

【か行】

【カドミウム／Cd】

主な用途は顔料、電池、金属加工などで、人体に対する毒性は強く、急性毒性としては数gの摂取で激しい胃腸炎を起こして死亡した例もある。又公害病として有名なイタイイタイ病の原因物質といわれ、人体に入るとカルシウム代謝の異常などを引き起こし、骨に影響（重度の骨軟化症）を及ぼす。

【環境基準】

環境基本法で「人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準」と定められている。これは、行政上の目標と定められているもので、規制基準とは性格が異なるものである。現在は大気、水質、土壤汚染、騒音に関する環境基準が定められている。

【98%値】

環境基準に関する長期的評価については、日平均値を年間にわたり測定値低い方から順に並べて、98%に当たる値を用いて評価する。例えば365日分の測定値がある場合は低い方から358番目の値。

【公害】

環境の保全上の支障のうち、事業活動その他の人の活動に伴って生じる相当範囲にわたる大気の汚染、水質の汚濁、土壤の汚染、騒音、振動、地盤の沈下及び悪臭によって、人の健康又は生活環境に係る被害が生じることをいう。

【光化学オキシダント／Ox】

光化学オキシダントは、オゾン（O₃）、パーオキシアセチルナイトレート（PAN）など酸化性物質の総称であり、大気中の窒素酸化物（NO_x）と炭化水素（HC）から光化学反応により生成する。これが光化学スモッグの主成分である。

【さ行】

【シアン／CN】

シアンは青酸カリ（シアン化カリ／KCN）に代表されるように、毒性が非常に強く、成人の経口致死量はシアン化水素で50～60mgといわれている。用途としては金属の精錬、電気メッキなどでシアン化カリ、シアン化ナトリウムといったシアン化合物として使われている。

【COD／化学的酸素要求量】(Chemical Oxygen Demand)

水中の有機物などを酸化剤で酸化するときに消費される酸化剤の量を酸素の量に換算したもの。数値が大きいほど有機物による汚濁が大きいことを示す。湖沼や海域における有機汚濁の代表的な指標として用いられ、環境基準が定められている。

【硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素／ $\text{NO}_3\text{-N}$ 、 $\text{NO}_2\text{-N}$ 】

人の体内で亜硝酸イオンとなるため、多量に摂取した場合はメトヘモグロビン血症等の障害を起こすことがある。

【水素イオン濃度／pH】

水の酸性・アルカリ性の度合いを示す指標で、7のとき中性でそれより大きいとアルカリ性、小さいと酸性になる。通常の河川水はpH7付近で、また海水ではpH8付近となっている。

【水準測量】

水準測量とは、土地の高さ（標高）を調査するため調査対象区域に水準点を定め測量することをいう。測量にあたっては2地点に標尺を立て、その中間に水準儀を水平に置いて、2つの標尺の目盛を読み、その差から高低差を求める。この繰り返しで、水準点間の高さを求める。精密な水準測量では高低差を0.1mmまで求めている。また、国内の水準測量の基準となる日本水準原点は国会前庭内憲政記念会館南にあり、原点内部の水晶板のゼロ目盛の高さが東京湾平均海面上24.4140mとされている。

【セレン／Se】

地殻中の存在量は0.05mg/kgとわずかなが、自然界に広く存在する。用途はセラミクス、半導体、光電池、整流器など幅広い。過剰に摂取すると頭痛、呼吸不全などの急性中毒や皮膚、胃腸、神経障害などの慢性中毒を引き起こす。

【全窒素／T-N】

窒素化合物全体のこと、無機態窒素と有機態窒素に分けられる。さらに無機態窒素はアンモニウム態窒素($\text{NH}_4\text{-N}$)、亜硝酸態窒素($\text{NO}_2\text{-N}$)、硝酸態窒素($\text{NO}_3\text{-N}$)に分けられる。有機態窒素はたんぱく質に起因するものと、非たんぱく質性のものと分けられる。窒素は動植物の増殖に欠かせない元素で、富栄養化（閉鎖性水域等において植物プランクトンなどの栄養源である窒素、リン化合物が過剰になる現象。赤潮などの発生要因となる。）の目安になる。

【全リン／T-P】

リン化合物全体のこと、無機態リンと有機態リンに分けられる。リンは、動植物の成長に欠かせない元素で、富栄養化の目安となる。

【総水銀／T-Hg】

無機水銀と有機水銀を合わせたものをいう。古くから防腐、消毒、金の精錬などに使われ現在でも化学製品製造、医薬品、乾電池などに使用されている。有機水銀化合物のうち水銀がメチル基(CH_3)、エチル基(C_2H_5)等のアルキル基と結びついた物質の総称をアルキル水銀という。アルキル水銀は吸収されやすく、諸臓器等に脳に蓄積して、知覚障害、運動失調、視野狭窄等の中樞神経障害、いわゆる水俣病を引き起こす要因とされている。

〔た行〕

【ダイオキシン類】

一般に、ポリ塩化ジベンゾ - パラ - ジオキシン (PCDD) とポリ塩化ジベンゾフラン (PCDF) をまとめてダイオキシン類と呼び、コプラナーポリ塩化ビフェニル (Co-PCB) のようなダイオキシン類と同様の毒性を示す物質をダイオキシン類化合物と呼んでいる。平成 11 年 7 月に公布されたダイオキシン類対策特別措置法においては、PCDD 及び PCDF に Co-PCB を含めて “ダイオキシン類” と定義された。それぞれの毒性は塩素のつく数と位置によって異なり、最強とされているのは 2, 3, 7, 8-四塩化ジベンゾジオキシン (TCDD) である。そのため、ダイオキシン類としての全体の毒性を評価するには合計した影響を考えるための手法が必要となる。そこで、最も毒性が強い 2, 3, 7, 8-TCDD の毒性を 1 として他のダイオキシン類の仲間の毒性の強さを換算した係数が用いられており、多くのダイオキシン類の量や濃度のデータは、この毒性等価係数 (TEF) を用いてダイオキシン類の毒性を足し合わせた値 (毒性等量 TEQ) が用いられている。

2, 3, 7, 8-TCDD はベトナム戦争で枯葉作戦に使用された除草剤に不純物として含まれていたため、人や生態系に深刻な被害を及ぼしたことが知られている。また、残留性、蓄積性が高く、肝臓や皮膚に障害を起し、強い催奇性や発ガン性をもつ。ダイオキシン類の現在の主な発生源は、ごみ焼却による燃焼だが、その他に製鋼用電気炉、タバコの煙、自動車排ガスなど様々な発生源がある。また、かつて使用されていた PCB や一部の農薬に不純物として含まれていたものが底泥などの環境中に蓄積されている可能性があるとの研究報告がある。

【大腸菌群数】

大腸菌及び大腸菌と性質が似ている細菌の数のことをいう。水中の大腸菌群数は、し尿汚染の指標として使われている。河川での大腸菌群数の環境基準値は類型別に定められている。

【チウラム / $C_6H_{12}N_2S_4$ 】

農薬で白色の固体。殺菌の用途で種子消毒、茎葉散布剤として使用される。除草剤として使用されるシマジン、水田除草剤として用いられるチオベンカルブといった農薬もチウラム同様環境基準が定められている。

【地球温暖化】

大気中に二酸化炭素などの熱を逃がしにくい温室効果ガスが増加して、地球の気温が上昇することをいう。数千年の間 1 ~ 2℃ の気温変化しかなかった大気がここ数十年の間に急な上昇を起こすことは、大気全体に深刻な影響を与え、数々の異常気象を生む原因となっている。

【窒素酸化物 / NO_x 】

ものの燃焼に伴い、窒素と酸素が反応して生じ、発生源としては自動車、工場、暖房機器などがある。燃料などの燃焼過程ではほとんどが一酸化窒素 (NO) の形で排出されるが、大気中で酸化され二酸化窒素 (NO_2) となる。窒素酸化物は光化学スモッグの原因物質のひとつで、人の呼吸器に悪影響を与えたりする。

【デシベル / dB】

騒音や振動の大きさを表す単位。デシベル (dB) は音圧、音の強さ、振動などの物理量を標準的な基準量と対比して、人の感覚に対応するように補正したもの。

【テトラクロロエチレン / C_2Cl_4 】

⇒有機塩素化合物

【等価騒音レベル / L_{eq} 】

測定時間内における騒音レベル (dB) の総エネルギー平均値。

【特定建設作業】

建設作業の内、著しく騒音、振動を発生するもので、騒音規制法・振動規制法において規制の対象となっている作業。くい打機、くい抜機やさく岩機、ブレーカーを使用する作業などが該当する。

【トリクロロエチレン／ C_2HCl_3 】

⇒有機塩素化合物

〔な行〕

【鉛／Pb】

古くから人類に利用されてきた金属のひとつで、現在でもその錆にくさ、加工のしやすさなどから鉛管・板、蓄電池等金属のまま使用されるほか、化合物としても広く使われている。人体への影響としては貧血や中枢神経への影響などがあげられる。

【二酸化硫黄／ SO_2 】

⇒硫酸化物／ SO_x

【二酸化窒素／ NO_2 】

⇒窒素酸化物／ NO_x

〔は行〕

【BOD／生物化学的酸素要求量】(Biochemical Oxygen Demand)

水中の有機物が好気性微生物によって分解される際に消費される酸素量をいう。値が大きいほど水は有機物によって汚染されていることを示し、河川における有機汚濁の代表的な指標として用いられる。

【PM_{2.5}／微小粒子状物質】

工場や自動車の排出ガスなどに含まれる微小な粒子のことで、大気汚染物質の一つとされている。粒径 $10\mu m$ ($0.01mm$)以下のものをSPM(浮遊粒子状物質)といい、粒径 $2.5\mu m$ 以下の微小な粒子をPM_{2.5}(微小粒子状物質)平成21年9月に新たに環境基準が設けられた。人体への影響は呼吸器・循環器の疾患や肺がんなど健康への影響が心配されている。

【PCB／ポリ塩化ビフェニール】

天然には存在しない合成有機塩素化合物。熱・酸・アルカリに強く、絶縁性が高いなどのすぐれた特性があり工業的に広く利用されてきた。用途はトランス油、コンデンサー、熱媒体などがある。人体への影響は皮膚への色素沈着、消化器障害、肝障害を引き起こす。カネミ油症候群の原因物質として知られる。

【非メタン炭化水素】

炭化水素は炭素と(C)と水素(H)からなる揮発性ガスの総称で、その主なものはエチレン、プロピレン、トルエンなどである。非メタン炭化水素(NMHC)は、炭化水素(HC)から光化学反応速度が遅いメタン(CH_4)を除いたものをいう。

【ふっ素／F】

天然には単体として存在せず、ふっ化物イオンとして広く存在する。用途としてはふっ素系樹脂の原料、ガラスのつや消しなどがある。人体への影響は中枢神経障害などがあげられる。

【浮遊粒子状物質／SPM】(Suspended Particulate Matter)

すす、土ぼこり、花粉など粒子状態で大気中に存在もののうち粒径が $10\mu m$ ($0.01mm$)以下のものをいう。大気中の滞留時間が長く、呼吸により呼吸気管の深部まで達し、人の健康に及ぼす影響が大きく、せき、たん、呼吸困難などを引き起こす原因物質のひとつであるといわれている。

【ふん便性大腸菌群数】

大腸菌群のうち44.5℃で培養したときに検出される細菌数のことをいう。通常の大腸菌群数(培養温度:36℃)には、大腸菌以外に土壌・植物など自然界に由来する菌種も多く含まれるが、ふん便性大腸菌群数はふん便由来の菌(大腸菌)の数とほぼみなすことができる。

【ベンゼン／C₆H₆】

揮発性有機化合物の1つで、無色透明の液体。染料、医薬品、農薬等の様々な化学品の原料、溶剤等に使われている人体への影響は白血病、再生不良貧血等があげられる。

【ほう素／B】

自然界には主にほう酸塩として存在する。用途としては、ガラス、陶器のエナメル合成、着火防止剤、燃料合成などがある。人体への影響は中枢神経障害があげられる。

〔や行〕

【有害大気汚染物質】

人間の健康、植物又は動物にとって有害な特性を有するもので、一般に大気中濃度が微量で急性影響は見られないが、長期的に暴露されることにより健康影響が懸念される。NO_xやSO_xなどの大気汚染物質とは区別して用いられる。

【有機塩素化合物】

炭素と塩素が直接結合した有機化合物をいい、一般に不燃・不溶性で生物分解がしにくい。金属機械部品の脱脂・洗浄、ドライクリーニングなどに大量に使用されたため、廃液等による地下水汚染が問題となった。人体への影響としては肝障害、腎障害、中枢神経障害が知られている。代表的な物質としてはトリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタンが上げられる。また、他にジクロロメタン、四塩化炭素なども平成5年に水質環境基準項目に指定された。

【要請限度値】

騒音規制法第17条第1項及び振動規制法第16条第1項に基づき、総理府令定められた道路交通騒音・振動の限度とされる値。この値を超え道路周辺の生活環境が著しく損なわれている場合は、公安委員会に対しての要請や道路管理者に意見をすることができる。

〔ら行〕

【六価クロム／Cr⁶⁺】

クロム化合物のうち三価のものはその毒性はほとんど問題ないが、六価クロム、特にクロム酸や重クロム酸の形のものは酸化力が強く有毒である。主な用途としては、顔料、電気メッキ等があり、これらの廃液やクロム鉱さいからの浸出水による地下水汚染が報告されている。人体への影響としては、皮膚潰瘍、鼻中穿孔などがある。

《平成30年5月1日号》  海岸清掃にご参加を 美化キャンペーングリーン茅ヶ崎 日時 5月27日(日)7時～8時30分(小雨決行、荒天時は6月3日(日)に延期) 場所 茅ヶ崎海岸全域(受付場所は小和田浜公園東側信号下、菱沼海岸信号下、第一中学校入口信号下、茅ヶ崎駅南口入口信号下、サザンビーチちがさき、西浜中学校前信号下、柳島歩道橋下) ほか 軍手などの清掃用具は持参。ゴミ袋は配布 問合せ 環境保全課環境保全担当  大気中の二酸化窒素の測定 測定器具の貸し出し 日時 測定日5月31日(木)・6月1日(金)、分析日6月12日(火) 場所 測定場所は原則自由。分析は市役所本庁舎えぼし1 申込 5月16日(水)～30日(水)に市役所環境保全課で測定器具を貸し出し ほか 分析のみの当日参加も可。分析に来られない方は測定後、環境保全課へ測定器具を持参。結果は郵送 問合せ 環境保全課環境保全担当	《平成30年11月15日号》  大気中の二酸化窒素測定 日時 12月6日(木)・7日(金)(測定日)。12月17日(月)(分析日) 場所 測定場所は原則自由。分析は市役所本庁舎2階えぼし1 申込 11月21日(水)～12月5日(水)に市役所環境保全課で測定器具を貸し出し ほか 分析のみの当日参加も可。分析に来られない方は測定後、環境保全課へ測定器具を持参。結果は郵送 問合せ 環境保全課環境保全担当
《平成30年7月15日号》  川の生き物を調べよう～河川生物相調査 日時 8月3日(金)10時～16時(雨天時はビデオ上映) 場所 市役所分庁舎コミュニティホール他 講師 五十嵐誠さん(横浜国立大学付属鎌倉中学校教諭) 対象 小学3年生～中学3年生20人(申込制(先着)) 申込 7月17日(火)～27日(金)に☎で 問合せ 環境保全課環境保全担当	《平成30年12月1日号》  薪ストーブの適切な使用を 化石燃料を使用しないため、環境に優しい暖房として注目されている薪ストーブですが、煙や臭いでご近所トラブルの原因となっています。日頃の小さな掃除・点検を行い、乾燥した薪を使うなどの配慮をお願いします。また、薪以外は燃やさないように注意してください。購入を検討している方は、煙突の位置や高さなどについて近隣住宅への気配りをお願いします。 問合せ 環境保全課環境保全担当  屋外焼却行為(野焼き)に注意 住みよい地域環境作りに協力を 屋外焼却行為(野焼き)は、その煙が悪臭や大気汚染の原因となり、周囲の生活環境に悪影響を及ぼすことがあります。こうした焼却に対して「体調が悪くなった」、「洗濯物に灰や臭いがついてしまう」、「火事になる危険性を感じる」などの苦情が市に多数寄せられています。屋外焼却行為(野焼き)は、法律や条例で原則的に禁止されています。ごみは屋外で焼却せず分別を行い、指定の曜日に指定された場所に出しましょう。 問合せ 環境保全課環境保全担当
《平成30年8月15日号》  河川や道路側溝に油やペンキなどを流さないで 雨水ます、道路側溝、水路は河川につながっています。河川や海の水環境を守るため、上記場所に廃油、ペンキ、洗濯排水などの汚れた水を流さないでください。 問合せ 環境保全課環境保全担当  防ごう生活騒音～ちょっとした気遣い・気配りで、やさしい音環境へ ペットの鳴き声、夜中の騒ぎ声、テレビや洗濯機の音など、周りの人に迷惑をかけてはいませんか。お互いの暮らしの中で出す生活騒音対策は、日常生活における配慮や、日頃からあいさつができる良好な近隣関係をつくることが必要です。 問合せ 環境保全課環境保全担当	《平成31年1月15日号》  環境保全セミナー 「マイクロプラスチックってなんだろう」 日時 2月5日(火)14時30分～16時 場所 市役所分庁舎コミュニティホール 講師 池貝隆弘さん(県環境科学センター職員) 定員 50人(申込制(先着)) 申込 1月4日(金)～25日(金)に☎で ほか 市・茅ヶ崎地区相模川をきれいにする協議会主催 問合せ 環境保全課環境保全担当  生活騒音防止のために～ちょっとした気遣い・気配りで、やさしい音環境へ ペットの鳴き声、夜中の騒ぎ声、テレビや洗濯機の音など、周りの人に迷惑をかけてはいませんか。それぞれの暮らしの中で出す生活騒音。日常生活における騒音防止の配慮や、日頃から一言でもあいさつができる良好な近隣関係をつくっていきましょう。 問合せ 環境保全課環境保全担当



BEACH CLEAN UP 2018

10月14日 9時～10時30分
(小雨決行、荒天延期10月21日)

場所 サザンビーチがさき
(青色ののぼり旗が目印です)



みなさんの参加、
待ってるぞよ!

ケーブルインターネット
ZAQのキャラクター
「ざっく」と、えびし麻呂
「びっく」



えびし麻呂

ルークス ロブスター、株式会社ジェイコム湘南と茅ヶ崎市が海岸清掃イベントを開催します。先着100人に、ルークス ロブスターのロブスターロールと株式会社ジェイコム湘南のオリジナルグッズをプレゼント。たくさん遊んで楽しい思い出を作ったサザンビーチに感謝しながら、海岸をきれいにしましょう。

【環境保全課環境保全担当】

ほか 軍手など清掃用具を持参。ごみ袋は配布
開催の有無は、市役所または市役所環境保全課☎(82)1111でご確認ください。

※キャラクターの参加は14日の晴天時のみ

年末年始の市の業務

施設の休業期間

主な施設の休業期間は以下のとおりです。その他施設の休業期間は市役所参照、または直接お問い合わせください。

施設	休業期間
市役所(消費生活センターを含む)、保健所、小出支所、出張所(辻堂駅前、香川駅前、ハマミナーナ)、市民窓口センター(茅ヶ崎駅前、萩園)、総合体育館、市体育館、屋内温水プール、教育センター(青少年教育相談室)、市民ギャラリー、子育て支援センター(茅ヶ崎駅前、茅ヶ崎駅前、香川駅前、浜竹)、ファミリーサポート・センター、こどもセンター、ハマミナーナまなびプラザ、勤労市民会館、観光案内所、水産市場、松崎港、西久保臨時設置自転車専用保管場	12月29日(土)～1月3日(水)
市役所分庁舎コミュニティホール	12月28日(金)～1月3日(水)
スポーツ	12月28日(金)～1月4日(木)
茅ヶ崎公園(野球場、庭球場)、相模川河川スポーツ公園(陸上競技場、庭球場)、戸沢スポーツ広場(庭球場、庭球場)、堤スポーツ広場(多目的球技場、庭球場)	12月28日(金)～1月4日(木)
初島スポーツ公園	12月30日(日)～1月3日(水)
ちがさき市民活動サポートセンター	12月27日(木)13時～1月3日(水)
男女共同参画推進センターいこりあ	12月28日(金)～1月3日(水)
地域福祉施設(コミュニティセンターなど)	12月29日(土)～1月4日(木)
子どもの家(鯉河、わいわいハウス、わくわくらんど、茅っ子・さんぽみち、なみっこ)	(12月28日(金)の受付等については各施設にお問い合わせください)
市民文化会館	12月28日(金)～1月3日(水)
美術館	12月27日(木)～1月3日(水)
文化資料館、民俗資料館	12月27日(木)～1月4日(木)
防衛健康センター、茅ヶ崎ゆかりの人物館	12月29日(土)～1月3日(水)
公民館、青少年会館	12月28日(金)～1月4日(木)
図書館、図書館香川分館、小出支所図書室、青少年会館図書室、各公民館図書室(香川を除く)、小和田地区コミュニティセンター図書室、浜崎公民館図書室、ハマミナーナ図書室、まなびの窓口(図書)、松浦コミュニティセンター図書室	12月28日(金)～1月4日(木)
福祉	12月28日(金)～1月4日(木)
老人福祉センター、老人憩の家	12月28日(金)～1月4日(木)
市営自転車駐車場	12月28日(金)～1月4日(木)
市営東海沿岸自転車駐車場	12月28日(金)～1月4日(木)
市場	1月1日(火)～1月3日(水)
湘南バスポートセンター(9時～16時45分)	12月29日(土)～1月3日(水)

※公共施設予約サービスは、12月28日(金)23時～1月4日(木)9時は利用できません

ごみ・リサイクル・図書返却などの業務

●ごみと資源物の収集

早朝～8時30分に出してください

燃やせるごみ

収集地区	年末	年始
月・木地区	12月27日(木)まで	1月3日(水)から
火・金地区	12月28日(金)まで	1月4日(木)から

※燃やせないごみ、びん、かん、ペットボトル、古紙類、衣類・布類、プラスチック製容器包装類、廃食用油、金属類(指定10品目)は、「ごみと資源物の収集カレンダー」のとおりです

大型ごみ、特定大型ごみ、特定粗大ごみ(有料)

事前に大型ごみ専用予約ダイヤル☎(57)1166に申し込みが必要(8時15分～17時)。申し込みは12月28日(金)まで/1月4日(木)から

動物死体処理

環境事業センターでの受け付けは12月28日(金)まで/1月3日(水)から

※元日を除く12月29日(土)～1月2日(水)は動物愛護の会☎(53)2241で受け付け(12月29日(土)9時～18時、30日(日)9時～17時、31日(月)12時～15時、1月2日(水)9時～15時)
【環境事業センター業務担当☎(57)0200】

●ごみの自己搬入(有料)

燃やせるごみ、燃やせないごみ、大型ごみ、特定大型ごみ、特定粗大ごみ
12月28日(金)まで/1月4日(木)から(9時～11時45分、13時～16時30分)

※必ず分別し、降ろしやすいように積む

12月28日(金)は、大変混雑します。早めに市が行う定期収集や大型ごみの戸別収集をご利用ください。

【環境事業センター管理担当☎(58)4200】

●資源物の自己搬入(無料)

びん、かん、ペットボトル、古紙類、衣類・布類、プラスチック製容器包装類、廃食用油、金属類(指定10品目)

12月28日(金)まで/1月4日(木)から(9時～11時45分、13時～16時30分)

【茅ヶ崎リサイクルセンター☎(74)5547、茅ヶ崎市民資源分別回収協同組合☎(57)8310】

●し尿・浄化槽くみ取り

12月28日(金)まで/1月7日(日)から

【環境保全課環境保全担当】

●図書の返却

閉館時の図書の返却は、図書館本館・香川分館・ハマミナーナ図書館の「返却ポスト」をご利用ください。年末28日(金)～年始4日(木)は、JR茅ヶ崎駅通路上返却ポストは利用できません。CD、DVD、ビデオ、紙芝居、市本などは破損の原因となるため、閉館時に直接ご返却ください。

【図書館☎(87)1001】

主な施設の1月の休業日と相談窓口一覧は本紙6面に掲載しています。

茅ヶ崎の環境

令和2年（2020年）1月発行（180部作成）

編集・発行 茅ヶ崎市環境部環境保全課

〒253-8686 神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目1番1号

携帯サイト
QRコード

TEL. 0467-82-1111（代表）

内線 1231～1233

FAX. 0467-57-8388

ホームページ <http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/>

携帯サイト <http://mobile.city.chigasaki.kanagawa.jp/>



冊子として作成したものは、再生紙を使用しています。